

【目次】

第三章 地域別構想 61

1. 地域区分.....	61
(1) 地域区分の検討要素.....	61
(2) 地域区分の設定.....	62
2. 内間木地域（上内間木・下内間木等）.....	63
(1) 地域の概要.....	63
(2) 地域の現況と主要課題.....	64
(3) 地域づくりの目標（将来像）.....	66
(4) 地域づくりの基本方針.....	68
3. 北部地域（北原・西原・朝志ヶ丘・宮戸・浜崎・田島等）.....	71
(1) 地域の概要.....	71
(2) 地域の現況と主要課題.....	72
(3) 地域づくりの目標（将来像）.....	74
(4) 地域づくりの基本方針.....	76
4. 東部地域（岡・根岸台・仲町等）.....	79
(1) 地域の概要.....	79
(2) 地域の現況と主要課題.....	80
(3) 地域づくりの目標（将来像）.....	82
(4) 地域づくりの基本方針.....	84
5. 西部地域（三原・西弁財・東弁財・泉水・膝折町の一部等）.....	87
(1) 地域の概要.....	87
(2) 地域の現況と主要課題.....	88
(3) 地域づくりの目標（将来像）.....	90
(4) 地域づくりの基本方針.....	92
6. 南部地域（本町・溝沼・幸町・栄町・青葉台・膝折町の一部・キャンプ朝霞跡地等）.....	95
(1) 地域の概要.....	95
(2) 地域の現況と主要課題.....	96
(3) 地域づくりの目標（将来像）.....	98
(4) 地域づくりの基本方針.....	100
7. 地域づくり方針総括図.....	103

第Ⅲ章 地域別構想

地域の特性や課題に応じた将来の望ましい
地域づくりの目標(将来像)を定めます。



1. 地域区分

(1) 地域区分の検討要素

地域区分の設定については、国がその検討要素を示しており、これに応じた本市における状況を確認すると以下のとおりとなります。また、地域ごとの居住人口バランスや、将来のまちづくり構想を考えるにあたり地域拠点や交通軸などの要素が特定の地域に極端に偏らないことも考慮し地域区分を設定します。

【地域区分の検討要素】

地域区分要素	朝霞市における状況
①行政サービスの単位となる区分	町字別では 22 区分、小学校区 10 区、中学校区 5 区、公民館利用区分として 6 区分があります。
②地形等による構造的な区分	<p>本市の区域を地形で分類すると武蔵野台地と荒川低地に大別されます。武蔵野台地は北朝霞・朝霞台駅周辺と朝霞駅、市役所、キャンプ朝霞跡地周辺などが含まれ市街地を形成している部分で、一方、荒川低地は荒川、新河岸川、黒目川沿いの部分となっています。</p> <p>キャンプ朝霞跡地などがある南西部が高く、北東部の荒川に向かって低くなっていますが、市内の標高差は最大で約 53m となっています。</p> <p>※参照：朝霞市地形図（9 ページ）</p>
③歴史的に継続している地域的つながりによる区分	現在の市域を形成するまでの町村単位としては、市域面積に対して比較的多い 10 区分となります。これまで大きく 2 期(明治 22 年、昭和 30 年)の拡大を経て現在の市域が形成されました。
④都市計画的施策として一体的にとらえる区分	<p>本市の全域が都市計画区域に指定され、市街化区域と市街化調整区域の境界はほぼ武蔵野台地と荒川低地により区分されますが、キャンプ朝霞跡地および陸上自衛隊朝霞駐屯地は市街化調整区域に指定されています。</p> <p>※参照：朝霞市都市計画図（15 ページ）</p> <p>既存の各種の計画による区分では、朝霞市緑の基本計画、朝霞市住宅マスタープランなどで地域区分が設定されており、それぞれ 8 区分、9 区分となっています。</p>

(2) 地域区分の設定

前頁の検討要素により、町字界を除けば地域区分の単位としては概ね5～10の単位に区分することが可能と考えられます。こうした生活圏や土地利用現況からの境界要素のほか、地域ごとの居住人口バランスや、地域拠点や交通軸などの要素が特定の地域に極端に偏らないことも考慮し、都市計画マスタープラン策定の地域区分の設定については、次のとおり5地域に設定しました。

【地域区分図】



【地域区分の対象町丁目】

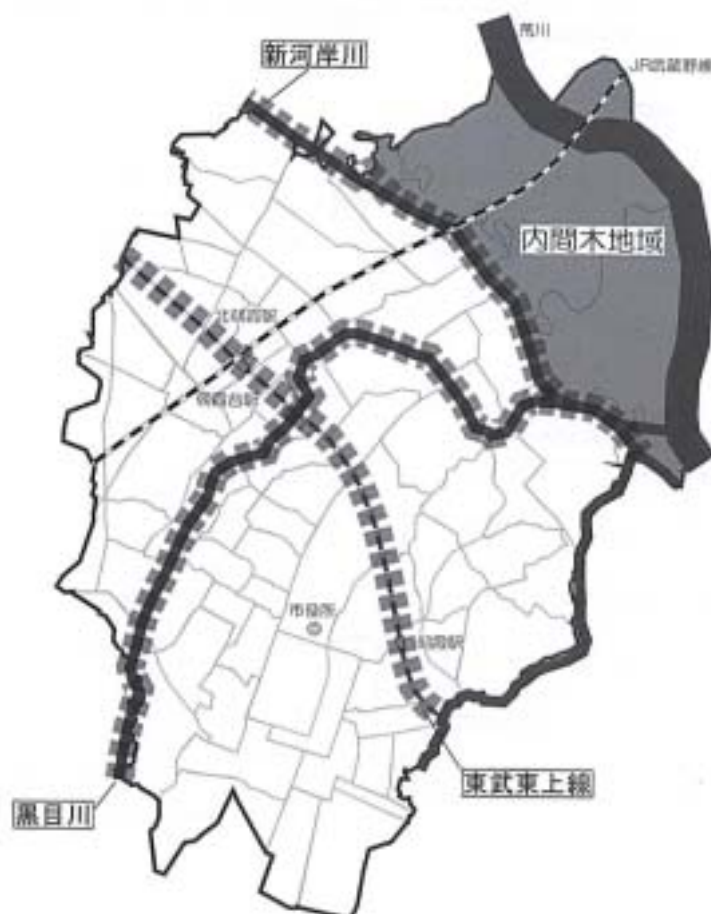
地域	対象町丁目	面積 (ha)	人口 (人)
内間木地域	大字上内間木、大字下内間木、大字浜崎の一部、大字宮戸の一部、大字田島の一部	約 349	約 1,800
北部地域	北原1・2丁目、西原1・2丁目、朝志ヶ丘1～4丁目、宮戸1～4丁目、浜崎1～4丁目、田島1・2丁目、大字宮戸の一部、大字浜崎の一部、大字田島の一部	約 385	約 24,300
東部地域	岡1～3丁目、根岸台1～8丁目、仲町1・2丁目、大字岡、大字根岸、大字台、大字溝沼の一部	約 394	約 24,100
西部地域	三原1～5丁目、西弁財1・2丁目、東弁財1～3丁目、泉水1～3丁目、膝折町3丁目の一部、膝折町4丁目の一部、大字溝沼の一部、大字浜崎の一部	約 247	約 26,400
南部地域	本町1～3丁目、溝沼1～7丁目、幸町1～3丁目、栄町1～5丁目、青葉台1丁目、膝折町1・2・5丁目、膝折町3丁目の一部、膝折町4丁目の一部、大字溝沼の一部、大字膝折、キャンプ朝霞跡地、陸上自衛隊朝霞駐屯地	約 463	約 45,800

2. 内間木地域 (上内間木・下内間木等)

(1) 地域の概要

- ▶ 当地域は本市の北東部に位置し、地域の北東部を荒川が、南西部を新河岸川が流れ、川にはさまれた荒川低地で構成されています。地域の北部は志木市に、また、荒川をはさんだ東部はさいたま市と戸田市に接しています。
- ▶ 当地域は明治 22 年 (1889 年) 上内間木村・下内間木村・その他 3 村が合併し内間木村として誕生しました。昭和 30 年 (1955 年) には朝霞町と合併し朝霞町に、その後、昭和 42 年 (1967 年) に市制施行により朝霞市となりました。
- ▶ 地域の全域が市街化調整区域で、古くからの農地および集落地 (市街化調整区域内において人が集まって生活している地域) となっており、他地域に比べ緑の多い田園風景が広がっています。地域の北部には、工業系施設や倉庫等の土地利用が見られ、既存集落地との調和を図ることが求められています。
- ▶ 地域の南部に位置する朝霞調節池や東端を流れる荒川の土手は、水害対策としての機能だけでなく、レクリエーション (休養・娯楽) の場として利用が期待されています。
- ▶ 地域の面積は約 349ha で本市全体の約 19% を占めていますが、人口は約 1,800 人で本市全体の約 2% を占めるにとどまっています。本市全体の人口が増加傾向にあるのに対して、当地域の人口は減少傾向にあります。

【朝霞市における内間木地域の位置】



(2) 地域の現況と主要課題

① 土地利用

現況

- 地域の全域が市街化調整区域となっています。
- 地域の北部は、工業系土地利用がされていますが、その他は集落と農地が広がっています。
- 飲食店等の商業系土地利用はほとんど見られません。

課題

- 自然的土地利用が主体ですが、産業系の施設利用が進み、既存集落との混在が見られ、適正な誘導が求められます。
- 荒川河川敷の広大な緑地が近郊緑地保全区域に指定され、今後も維持を図りながら、農地・朝霞調節池などの自然的要素の活用も求められます。
- 農地として保全する地域の位置づけや、朝霞調節池や河川等の自然環境を活かしたまちづくりが必要です。

② 道路交通体系

現況

- 河川に囲まれた地域であり、本地域と市内他地域とを結ぶ幹線道路は1路線のみです。
- バス路線は、路線数、運行本数も少ない状況です。
- 道路幅員が狭く、歩道が設置されている道路はほとんどありません。
- 大型車両の通過が多く、慢性的な渋滞が続くため、住宅地内の通過交通も多く見られます。
- 避難場所が地域内に無く、避難場所までの距離は遠くなっています。

課題

- 他地域に比べ鉄道・バスなどの公共交通網へのアクセス（接続）性が不足しているため、その向上が望まれます。
- 国道254号バイパスの早期整備による市の骨格的な道路の整備とともに、市の中心部や他地域へのアクセス（接続）性の向上が望まれます。
- 自動車と歩行者の道路機能が混在しており、通学時の危険性も指摘されていることから、安全な歩行者空間の確保が求められます。
- 避難場所へのアクセス（接続）性の向上が求められます。

③ 都市施設

現況

- 地域内に小・中学校が無く、通学距離が長い状況です。
- 大雨時には浸水等の水害が頻繁に発生しています。
- 公園やスポーツ施設等の整備された公共空間は内間木公園のみで、少ない状況です。
- 集会機能をもつ公共施設は準天然温泉施設の湯〜くうじょう（憩いの湯）のみです。

課題

- 通学路の安全性の確保、またルートの見直しなどが必要です。
- 下水道等の生活基盤施設、日常生活に重要な公共施設および医療施設等の誘致圏（施設利用の想定される範囲）外が多いため、その充実が望まれます。
- 複数の河川に囲まれた地域であり雨水・排水対策等も含め、治水対策や遊歩道としての整備等による親水性の確保が求められます。
- 避難場所が地域外で接続も困難なことから、地域内に避難地の確保が望まれます。

④ 歴史資源・自然環境

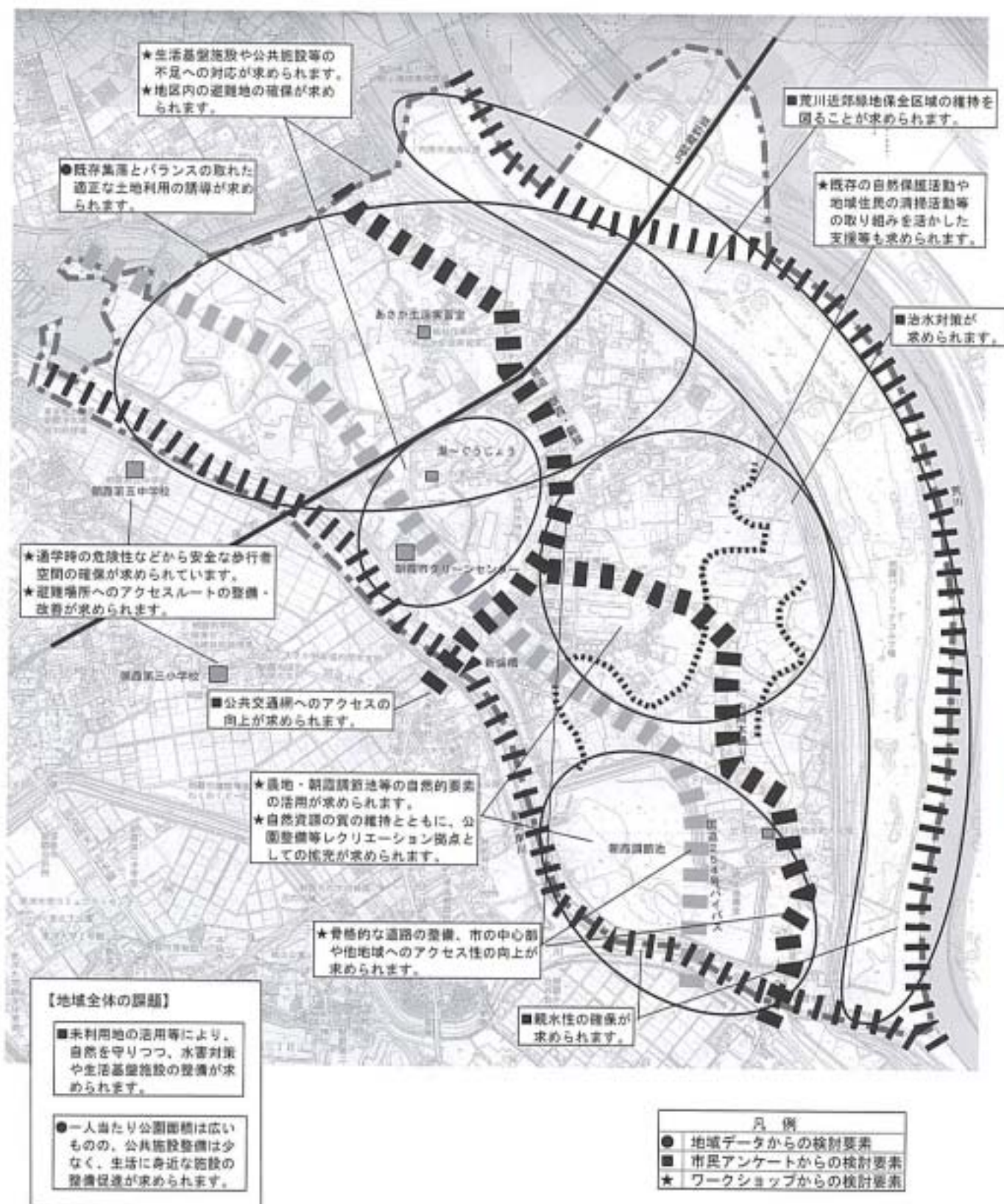
現況

- 水田、畑などの良好な農地が広がっています。
- かつては子供の遊び場であり、また排水機能をもっていた水路が機能していない状況です。
- 荒川、新河岸川など良好な水辺空間を有する自然環境に恵まれています。
- かつては地域住民による草刈などが各所で行われていましたが、人口の減少などにより困難な状況です。河川敷では、電化製品・乗用車等の不法投棄も見られます。

課題

- 河川や残存する緑地等の保全、自然資源の質の維持・向上、および朝霞調節池の整備促進やビオトープ（生物の生息空間）等の公園整備など、レクリエーション（休養・娯楽）拠点としての拡充が求められます。
- 既存の自然保護活動や、地域住民による水路清掃活動などの従来からの取り組みを活かし、その支援等が望まれます。
- 水路の復元や遊歩道としての整備など、良好な水辺空間の保全が求められます。

【内間木地域の課題図】



(3) 地域づくりの目標（将来像）

地域別ワークショップにおいて検討・抽出されたキーワードをもとに、地域の将来像を設定します。

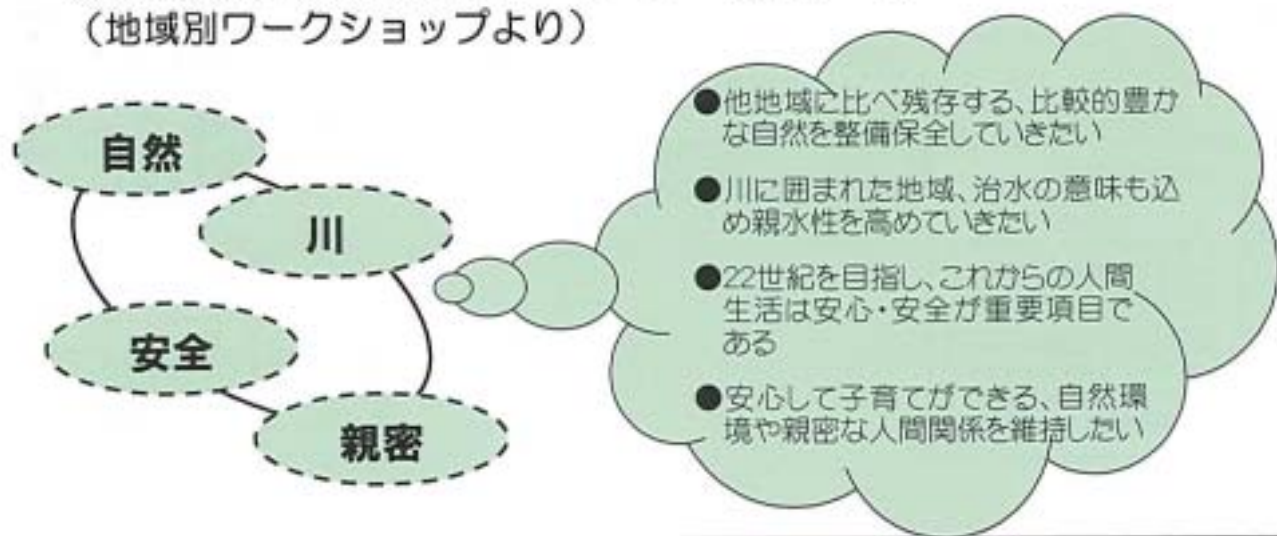
①将来像

あざやか
あ彩に **さ**爽やかに **か**川面奏でる **し**春夏秋冬
う潤い **ち**調和 **ま**真心の **ぎ**義理と愛情の郷
～残存する豊かな自然の整備保全～

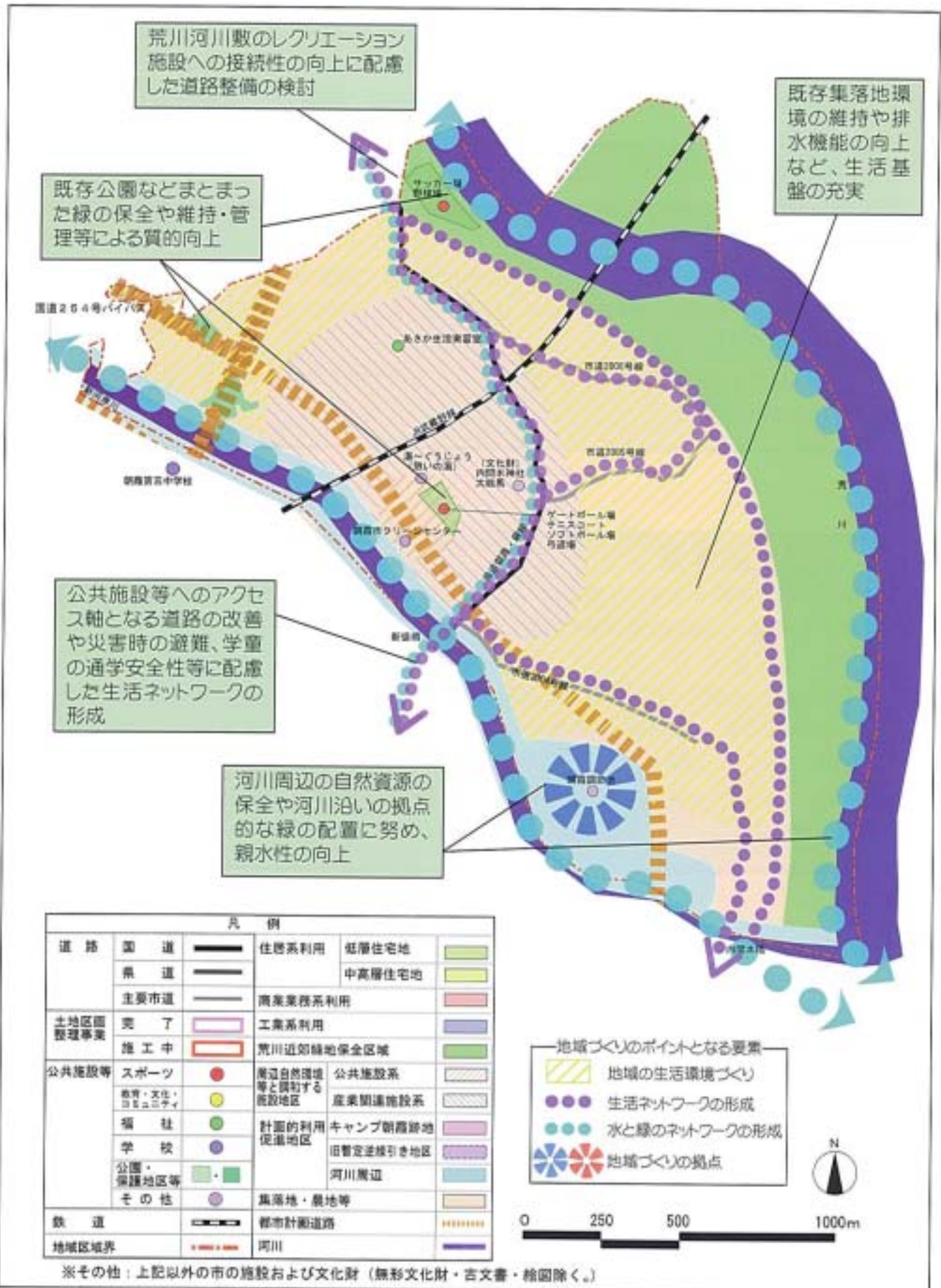
②まちづくりの方向性

- ▶ 残存する自然資源の保全・維持管理の充実、産業系土地用途の集落地（市街化調整区域内において人が集まって生活している地域）等への配慮を充実し、良好な自然環境や農地に囲まれた潤いのある住み良いまちを目指します。
- ▶ 下水道などの生活に身近な都市施設整備の充実、道路交通環境の改善や公共交通網の充実を図り、より快適に、そして水害等の災害の安全性を高め、安心・安全に暮らせるまちを目指します。
- ▶ 新河岸川流域の親水性を高めるとともに、アクセス（接続）性の改善を図り他地域との交流促進を目指します。

将来像設定にあたってのキーワード・サブテーマ （地域別ワークショップより）



【内間木地域の地域づくり方針図】



(4) 地域づくりの基本方針

(3) に示す地域づくりの目標を具体的に進めていくための方針を全体構想分野別方針に示す事項を基本としながら「土地利用」、「道路交通体系」、「都市施設・生活環境」、「歴史資源・自然環境」の分野に区分して整理し、その総括について「地域づくり方針図」に示します。

⇨土地利用

- 荒川、新河岸川に囲まれ、広大な河川敷を有していることから、水と水辺の自然資源の保全に努めます。
- 上内閣木などの既存集落地については、残存する緑や農地の保全により集落地環境を維持します。また、産業系の施設利用も見られることから、施設が立地する周辺環境への配慮により適切な誘導を図ります。
- 新河岸川の北側に計画されている国道254号バイパス整備を前提とした沿線土地利用の検討を進めます。

⇨道路交通体系

- 県道朝霞・蕨線や地域に整備されている主な市道については、自動車と歩行者および自転車利用の分離のための交通規制の検討などにより、地域の生活軸・通学路としての安全性を確保していきます。
- 集落地と公共施設を結ぶ道路網の充実により、災害時の避難経路の確保・充実に努めます。
- 新河岸川を渡り、北朝霞・朝霞台駅など本市の都市機能が集積する地区へのアクセス（接続）性を向上させる道路・橋梁の整備を検討します。
- 市内循環バスルートの見直し、民間バス事業者への要請等により公共交通の利便性向上に努めます。

⇨都市施設・生活環境

- 河川に囲まれる地域特性をふまえ、低地部の水害に対する安全性の維持・確保に資するよう雨水・排水対策等も含め、総合的な治水対策を進めます。
- 合併処理浄化槽等の設置充実とともに、下水道処理区の拡充検討も視野に入れ地域の排水処理機能の向上を促進します。
- あさか生活実習室など既存の公共性の高い施設を活用するとともに教育や文化・福祉などの機能充実について検討し、地域生活の利便性向上に努めます。

⇒歴史資源・自然環境

- 荒川、新河岸川、地域内の水路等の水と水辺に残存する緑の保全や、遊歩道の整備・充実の検討などにより水辺空間の保全・活用を図ります。
- 地域に残存する緑として、既存の公園、農地、朝霞調節池周辺等についても位置づけ、まちづくりへの一層の活用を検討します。
- 近郊緑地保全区域である、荒川沿いのまとまった緑の保全とともに、余暇活動の場としての活用を図ります。

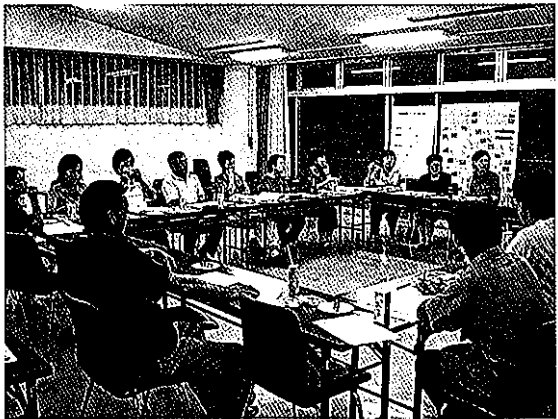
ワークショップからの声～まちづくり推進のために～

- 水路清掃や水辺空間の保全活動など、地域住民の活動支援を促進すること
- 市民と行政の協働による、よりよいまちづくりへの取り組みを推進すること
- 自然資源等を活かし、より快適な環境を形成していくため、地域住民が一体となって取り組むコミュニティ活動・組織づくりの支援やまちづくりを支えるルールづくり地域づくりの目標をふまえ、目標を具体化するための基本方針を設定すること

.....などが重要です。



【地域別ワークショップ 内間木地域活動風景】

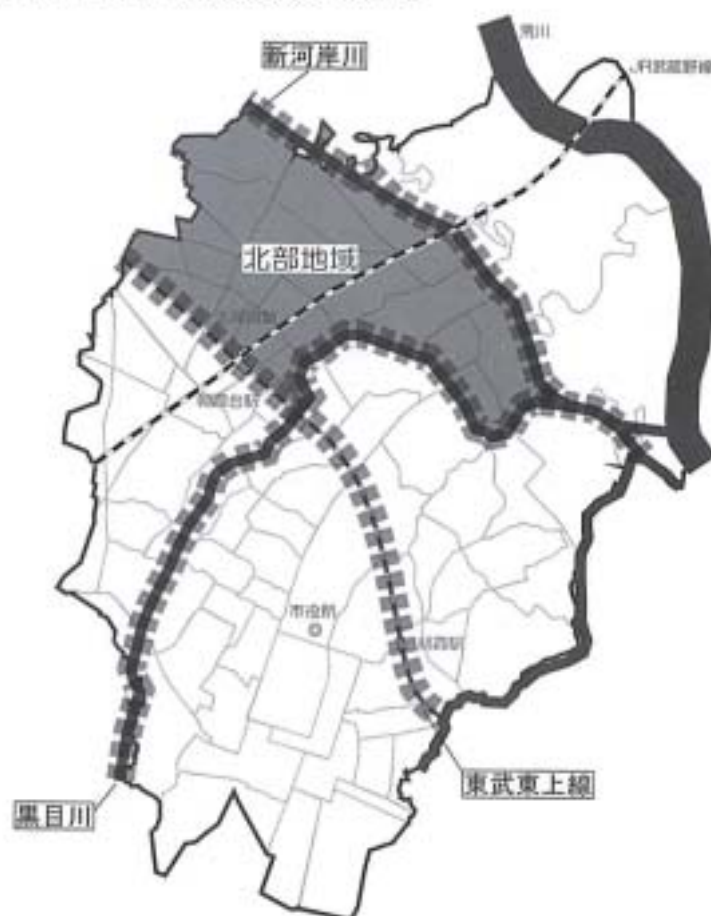


3. 北部地域 (北原・西原・朝志ヶ丘・宮戸・浜崎・田島等)

(1) 地域の概要

- ▶ 当地域は、本市の北部に位置し、地域の北東部を新河岸川が、南部を黒目川が流れ、荒川低地と武蔵野台地で構成されています。地域の北部は志木市に接しています。
- ▶ 当地域は、明治22年(1889年)宮戸村・浜崎村・田島村・その他2村が合併し内間木村として誕生しました。昭和30年(1955年)には朝霞町と合併し、その後、昭和42年(1967年)に市制施行により朝霞市となりました。
- ▶ 地域の南西部には、東武東上線朝霞台駅およびJR武蔵野線北朝霞駅があります。
- ▶ 地域の東部から南部は、市街化調整区域で農地が広がっています。一方、西部の駅周辺は市街化区域で住宅地となっています。
- ▶ 駅周辺は、土地区画整理事業が完了しており、また、地区計画により商業集積が図られています。
- ▶ 地域の面積は約385haで、本市全体の約21%を占め、地域内人口についても約24,300人で市全体の約20%を占めています。地域内の人口は、駅周辺の地域を中心に増加傾向にあります。

【朝霞市における北部地域の位置】



(2) 地域の現況と主要課題

① 土地利用

- 現況**
- 地域の約60%が市街化区域に指定され、そのうち南部の駅周辺は土地区画整理事業が完了しており、商業機能の集積が見られます。
 - 地域の北部は形成年代が古く、小規模な開発による宅地化が進んできた地区です。
 - 市街化区域の中であって、農地等が多く残る区域が旧暫定逆線引き地区に指定されています。
 - 河川沿いの市街化調整区域では一部集落があるものの概ね農地となっています。良好な田園風景が広がっていますが、相続時等に土地転用が多く見られます。

- 課題**
- JR武蔵野線と東武東上線の乗換駅となっている北朝霞・朝霞台駅があり、多くの駅利用者の流動を活かした商業的土地利用の充実を図るとともに、生活に身近な商業環境の充実が求められます。
 - 市街地には農地の混在が見られ、保全すべき農地と住宅の整序が望まれます。また、地域には住宅が密集した地域も見られ、その改善とともに防災性の向上も含めた緑地の確保が求められます。

② 道路交通体系

- 現況**
- 道路幅員が狭く、歩道が設置されている道路が少ない状況です。
 - JR武蔵野線が地域の東西に、東武東上線が地域界を南北に横断しており、北朝霞駅・朝霞台駅が設置されています。
 - 駅前に地下自転車駐車場などが設置されていますが、利用者が少ないものもあり、放置自転車が商店前や広場などに多く存在します。
 - 都市計画道路が決定されていますが、未整備な部分があります。

- 課題**
- 住宅地における体系的な交通網の充実や、避難場所へのアクセス（接続）性の向上が望まれます。
 - 自動車と歩行者の道路機能が混在しており、通学時の危険性も指摘されていることから安全な歩行者空間の確保が求められます。
 - 駅周辺の駐輪場の更なる有効活用や公共交通機関の充実など、使いやすい駅前空間づくりが必要です。
 - 河川沿いの環境を活かし、既存公園等をつなぐルートを形成するなど、地域内の水と緑の回遊性の向上が望まれます。

③ 都市施設

- 現況**
- 住宅が密集した地域があり、地震・火災などに対する防災対策が懸念されています。
 - 狭い道路が多く、防災上危険な地域があります。
 - 都市公園が少なく、地域内人口一人当たりの地域内都市公園面積が最も狭くなっています。
 - 市街化調整区域に公共施設が多く立地していますが、アクセス（接続）性が悪い状況です。

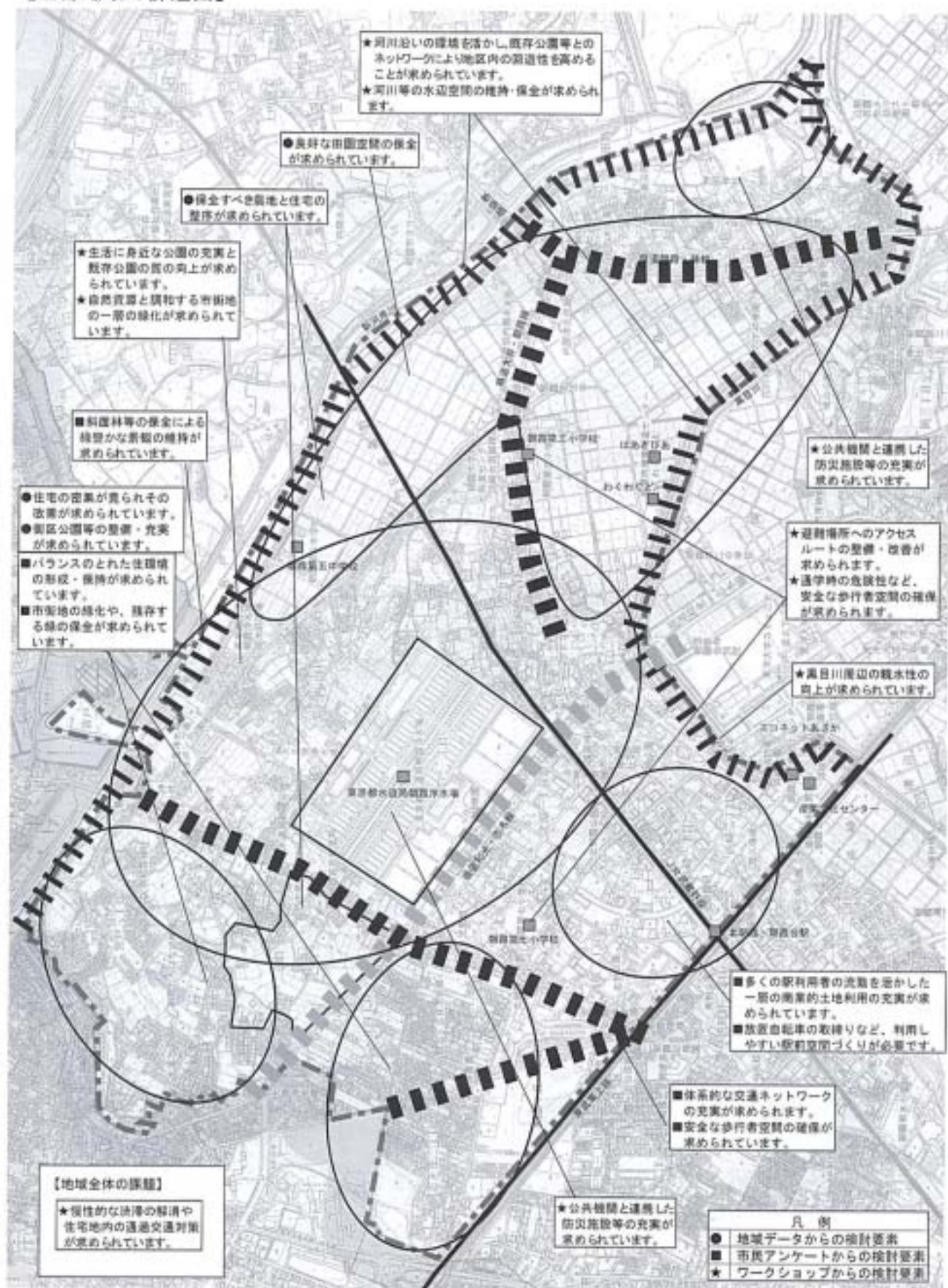
- 課題**
- 街区公園など生活に身近な公園が不足しており、その充実とともに、既存公園の緑化や環境の改善など質的な向上が望まれています。
 - 地域内に立地する東京都朝霞浄水場等の公共機関と連携した防災機能の充実が求められています。

④ 歴史資源・自然環境

- 現況**
- 水田は減少傾向にありますが、比較的多く残存し、良好な田園風景を形成しています。
 - 黒目川・新河岸川など、良好な水辺空間を有する自然環境に恵まれています。
 - 斜面林等、緑豊かな空間が点在しますが、その多くは個人の所有地（民地）です。
 - 黒目川沿いは桜並木の遊歩道が整備されています。

- 課題**
- 斜面林などの保全による緑豊かな景観の維持が望まれます。
 - 残存する自然資源と調和し、都市景観へ配慮した市街地の一層の緑化の推進が求められます。
 - 地域住民および民間企業などの参加による緑化の推進が必要です。
 - 自然景観・都市景観に配慮した街路樹整備など、緑化の促進が求められています。

【北部地域の課題図】



(3) 地域づくりの目標 (将来像)

地域別ワークショップにおいて検討・抽出されたキーワードをもとに、地域の将来像を設定します。

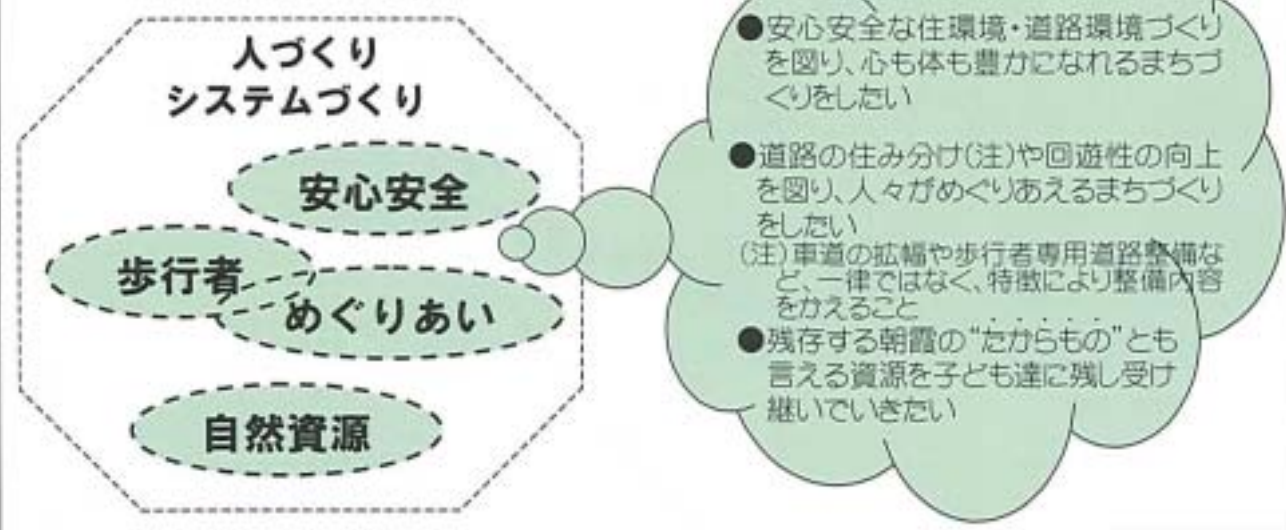
① 将来像

身近なみどりにあふれ 人がめぐりあい
心豊かに暮らす まち

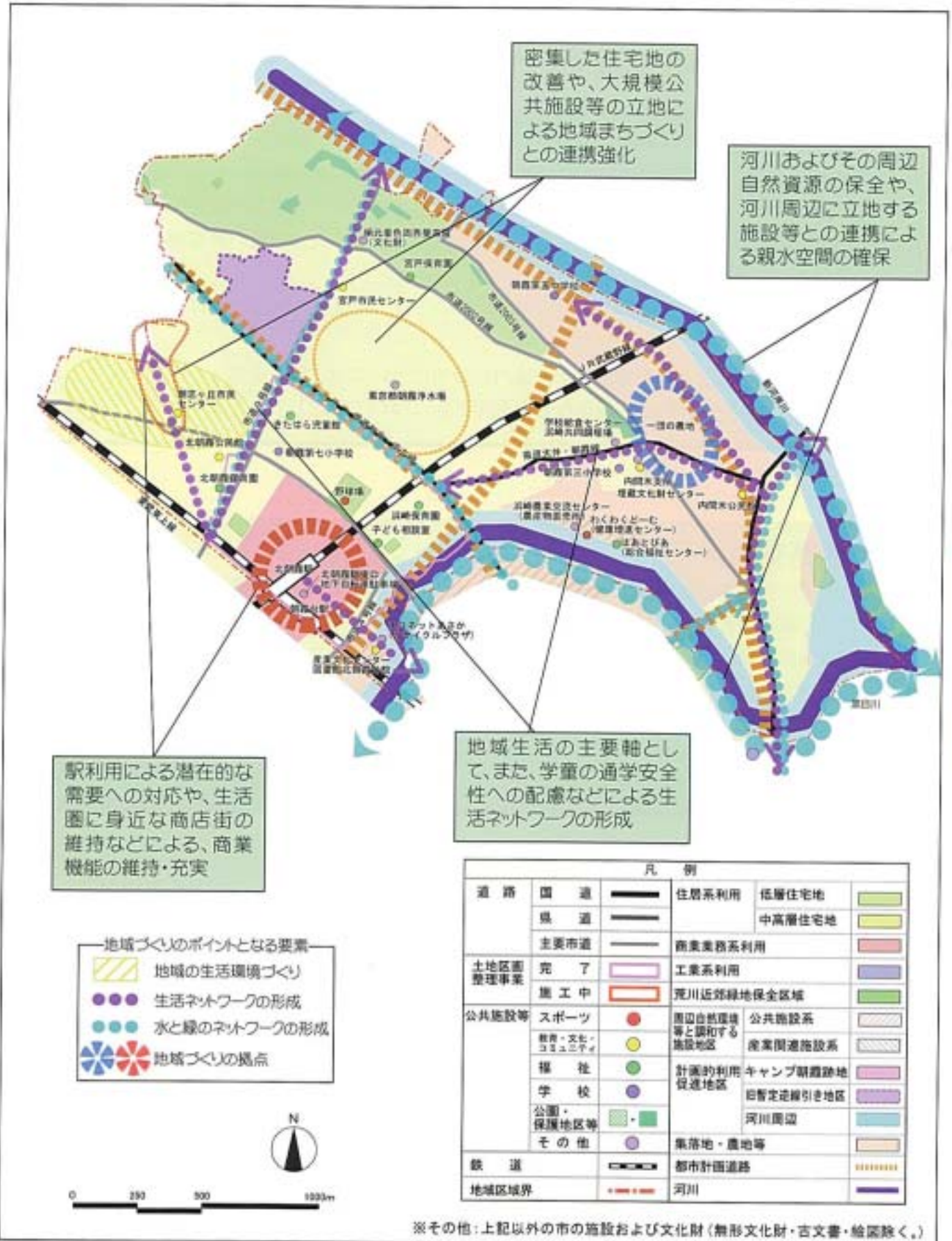
② まちづくりの方向性

- ▶ かつて無秩序な市街化が形成されてきた既存市街地における、狭あい道路（幅員 4m未満）の改善などにより、安心・安全に暮らせる快適な住環境の形成を目指します。
- ▶ 黒目川・新河岸川の河川沿い空間の保全とともに空閑地の活用による公園の確保や残存する農地や緑地の保全を図り、河川や公園等とのネットワーク化を推進し、一体的な活用を目指します。
- ▶ 駅周辺においては、商業・業務機能のバランスよい配置などにぎわいの拠点にふさわしい環境づくりを図るとともに、居住地においては生活に身近な商業機能の充実を目指します。

将来像設定にあたってのキーワード・サブテーマ (地域別ワークショップより)



【北部地域の地域づくり方針図】



(4) 地域づくりの基本方針

(3) に示す地域づくりの目標を具体的に進めていくための方針を全体構想分野別方針に示す事項を基本としながら「土地利用」、「道路交通体系」、「都市施設・生活環境」、「歴史資源・自然環境」の分野に区分して整理し、その総括について「地域づくり方針図」に示します。

⇨土地利用

- ▶ 北朝霞・朝霞台駅周辺の多くの居住者や駅利用者を有する潜在需要の高さに対応するよう今後も地区計画による誘導を維持し、両駅周辺における商業・業務系利用を促進します。
- ▶ 朝志ヶ丘地区に形成されている既存商店街における安全・快適な買い物場所として、生活に身近な商業環境の充実を支援します。
- ▶ 朝志ヶ丘地区など、住宅の密集する地域については、防災性の向上や良好な住宅市街地の形成を誘導します。
- ▶ 宮戸地区の旧暫定逆線引き地区や地域内の農地については、周辺環境との調和に配慮し、保全すべき農地や計画的な宅地化などの利用方向について検討していきます。

⇨道路交通体系

- ▶ 北朝霞・朝霞台駅周辺の駐車場施設の適正な運用や交通施設の改善等により、駅利用者・歩行者に配慮した安全な歩行者空間を確保していきます。
- ▶ 県道大井・朝霞線や地域に整備されている主な市道については、自動車と歩行者および自転車利用者の分離のための交通規制の検討などにより、地域の生活軸・通学路としての安全性を確保していきます。
- ▶ 宮戸・浜崎・田島地区など駅から遠隔となる住宅地における体系的な道路網の整備を進め、地域に立地する公共施設や避難場所等へのアクセス（接続）性を高めます。

⇨都市施設・生活環境

- ▶ 北割公園・浜崎公園など、既存公園の質的向上とともに、地域に残存する未利用地などの活用により生活に身近な広場や公園を充実していきます。
- ▶ 災害時の避難に資する避難場所の確保とともに、東京都朝霞浄水場等との連携による災害時の連絡体制の強化を検討します。
- ▶ 河川に囲まれる地域特性をふまえ、低地部の水害に対する安全性の維持・確保に資するよう雨水・排水対策等も含め、総合的な治水対策を進めます。
- ▶ 既存宅地の生垣化等による住宅地の緑化を進め、まちなみ形成や潤いのある住環境の向上を促進します。

⇒ 歴史資源・自然環境

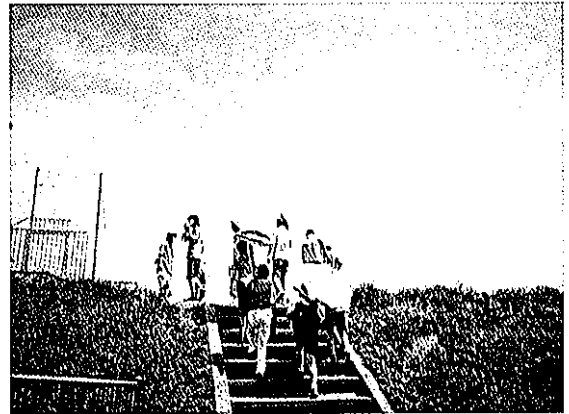
- 黒目川・新河岸川、地域内の水路等の水と水辺に残存する緑の保全や、はあとびあ（総合福祉センター）、わくわくどーむ（健康増進センター）などの周辺公共施設との連携により親水空間づくりを促進します。
- 地域を特徴づける宮戸地区の新河岸川沿いに残存する斜面林の保全について検討します。
- 地域の主要施設（鉄道駅、商店街、公共施設、公園など）を既存軸（河川や道路）で結び、街路樹などによる道路の緑化の推進とともに地域生活の主要軸の形成にも資する水と緑の軸づくりを検討します。

ワークショップからの声～まちづくり推進のために～

- 行政による取り組みのほか、行政は、違法駐輪や不法投棄対策、防災対策など、地域住民の活動の支援を促進すること
 - 市民と行政の協働による、よりよいまちづくりへの取り組みを推進すること
 - 自然資源等を活かし、より快適な環境を形成していくため、地域住民が一体となって取り組むコミュニティ活動・組織づくりの支援やまちづくりを支えるルールづくりに努めること
- ・・・・・・・・・・などが重要です。



【地域別ワークショップ 北部地域活動風景】

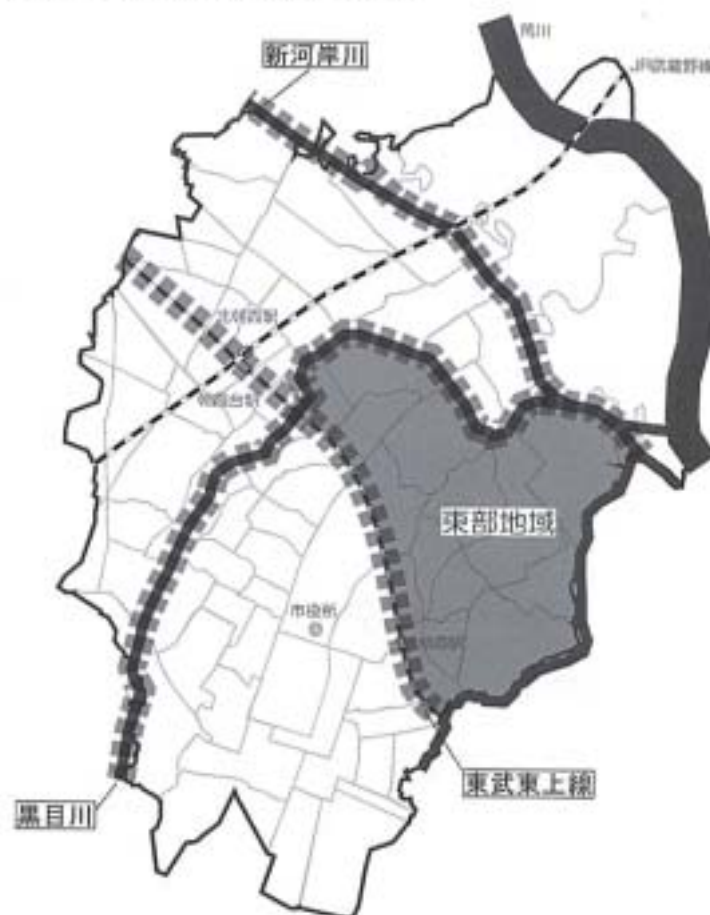


4. 東部地域 (岡・根岸台・仲町等)

(1) 地域の概要

- ▶ 当地域は、本市の東部に位置し、地域の北部を黒目川が流れ、東端で新河岸川と合流しています。地形は川沿いの荒川低地と内陸部の武蔵野台地で構成されています。地域の東南部は和光市に接しています。
- ▶ 当地域は、明治22年(1889年)根岸村・台村・岡村が膝折村その他2村と合併し、膝折村となりました。昭和7年(1932年)の町制施行時に朝霞町と改名し、昭和30年(1955年)には内間木村と合併し朝霞町に、その後、昭和42年(1967年)に市制施行により朝霞市となりました。
- ▶ 地域の北部および東部は市街化調整区域で、古くからの農地および集落地(市街化調整区域内において人が集まって生活している地域)となっており、田園風景が広がっています。
- ▶ 地域の西端は東武東上線が走っており、南部に朝霞駅があります。駅周辺の中心市街地は、近年商業の衰退が見られるため、周辺の土地区画整理事業の整備とあわせ商店街の活性化が求められています。
- ▶ 地域の面積は約394haで本市全体の約21%を占め、地域内人口についても約24,100人で本市全体の約20%を占めています。人口は駅周辺を中心に増加傾向にあります。

【朝霞市における東部地域の位置】



(2) 地域の現況と主要課題

① 土地利用

- 現況**
- ▶ 地域の約 55%が市街化区域ですが、北部および東部は市街化調整区域となっています。
 - ▶ 市街化区域のうち、駅周辺では土地地区画整理事業が実施されている地域があります。
 - ▶ 駅周辺の中心市街地においては、商業の衰退傾向が見られます。
 - ▶ 市街化区域の中にあつて、農地等が多く残る区域が旧暫定逆線引き地区に指定されています。
 - ▶ 黒目川沿いの地域においては、良好な田園風景が形成されています。

- 課題**
- ▶ 駅周辺については、市街地整備の促進と商業機能の充実の一体的な推進による中心市街地の活性化が求められています。
 - ▶ 市街地における農地の混在が見られ、保全すべき農地と住宅の整序や、住宅地の質の向上等が望まれます。
 - ▶ 旧暫定逆線引き地区については、市街化等の進行に備えた適正な土地利用の誘導が求められます。

② 道路交通体系

- 現況**
- ▶ 東武東上線が地域界の西部を南北に横断しており、朝霞駅が設置されています。
 - ▶ 朝霞駅を起点に、市内循環バスなど、多くのバスが運行しています。
 - ▶ 駅へのアクセス道路をはじめ、都市計画道路が決定されていますが、未整備な部分があります。
 - ▶ 道路幅員が狭く、歩道が設置されていない道路が多く見られます。
 - ▶ 駅への交通手段として、自転車の通行量が多く、自転車・人・車の錯綜が見られます。

- 課題**
- ▶ 地域内の体系的な交通網の充実や、避難場所へのアクセス（接続）性の向上が望まれます。
 - ▶ 自動車と歩行者の道路機能が混在しており、安全な歩行者空間の確保が求められます。
 - ▶ 朝霞駅前の都市再生機構住宅の建替えにあわせた駅前周辺施設の再生が求められています。
 - ▶ 点在する公園や歴史資源を巡る散策路・遊歩道の整備など、水と緑の回遊性の向上が求められます。

③ 都市施設

- 現況**
- ▶ 狭い道路が多く、防災上危険な地域があります。
 - ▶ 地域内の一部に水はけの悪い地域が存在します。
 - ▶ 朝霞駅前では都市再生機構が行う団地の建替えが進められています。

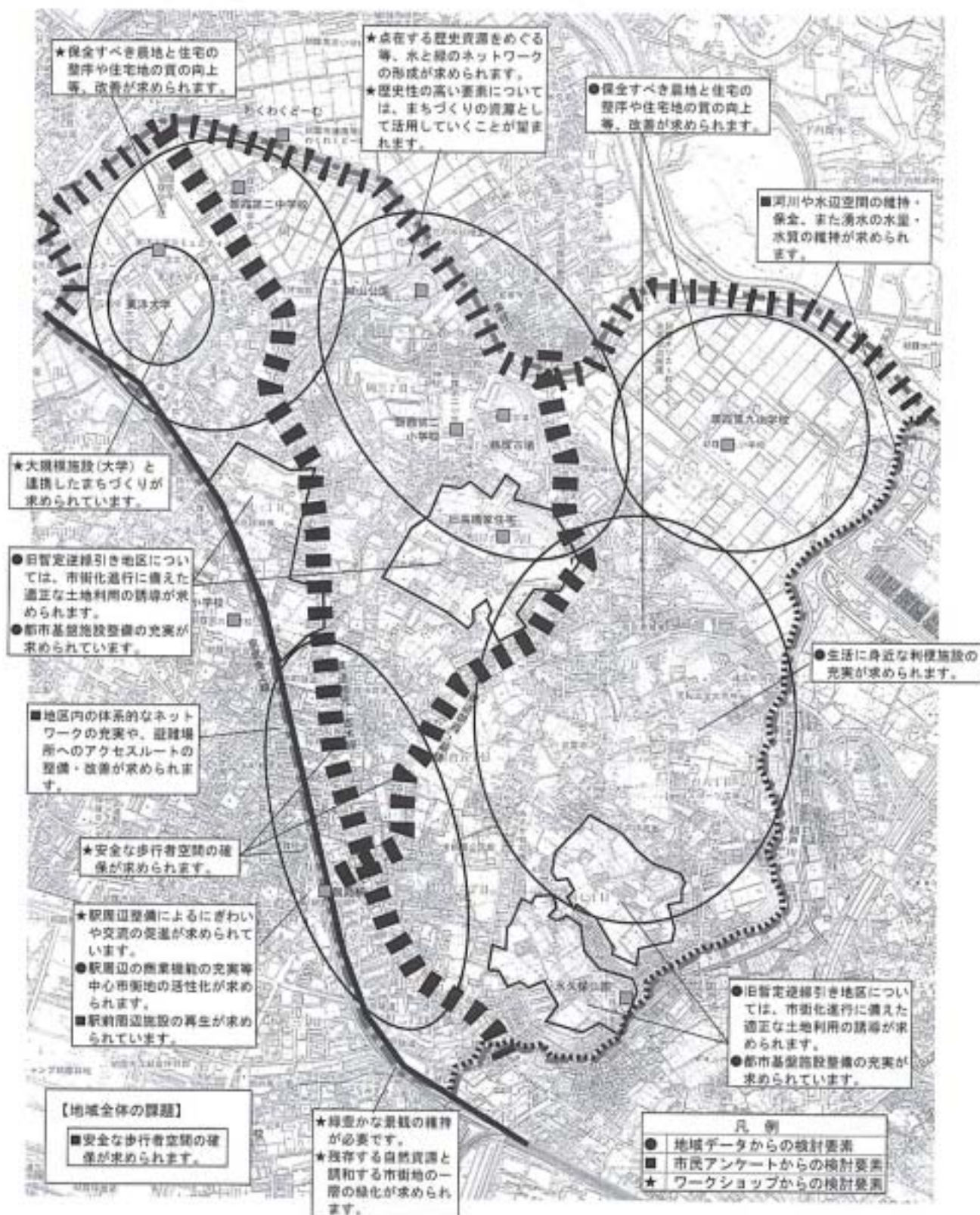
- 課題**
- ▶ 旧暫定逆線引き地区が多く残り、下水道などの都市基盤整備の充実が求められます。
 - ▶ 街区公園など生活に身近な公園の充実や、既存公園の緑化や環境の改善など質の向上が望まれます。
 - ▶ 駅前および県道と光・志木線の沿道以外に目立った商業系施設の集積がなく、生活に身近な利便施設の拡充が望まれます。

④ 歴史資源・自然環境

- 現況**
- ▶ 黒目川・越戸川および湧水が多く点在し、良好な水辺空間を有する自然環境に恵まれています。
 - ▶ 比較的規模の大きい都市公園や、文化財など歴史資源が存在しています。
 - ▶ 斜面林等、緑豊かな空間が点在しますが、その多くは個人の所有地（民地）です。
 - ▶ 黒目川沿いの地域においては、良好な田園風景が形成されています。

- 課題**
- ▶ 河川や水辺空間の保全、また湧水の水量・水質の維持が求められます。
 - ▶ 農地や斜面林などの保全による緑豊かな景観の維持が望まれます。
 - ▶ 残存する自然資源と調和し、都市景観に配慮した市街地の一層の緑化（花いっぱい運動など、地域住民や民間企業などの参加を充実）が望まれます。
 - ▶ 旧高橋家住宅など地域に多く散在する歴史性の高い要素については、まちづくり資源として活用していく事が望まれているとともに、資源を巡る回遊性の向上が求められています。

【東部地域の課題図】



(3) 地域づくりの目標（将来像）

地域別ワークショップにおいて検討・抽出されたキーワードをもとに、地域の将来像を設定します。

①将来像

水と緑と歴史に囲まれた 生活にうるおいをかんじるまち

②まちづくりの方向性

- ▶ 農地の保全・活用、旧暫定逆線引き地区の利用方向等について、居住者・地権者等と検討していくとともに、住環境と農業環境の調和を目指します。
- ▶ 残存する自然資源・歴史資源を保全し、起伏に富んだ地形を活かした散策路づくりや、道路規模・配置間隔等に配慮した体系的な道路網の形成により、安心して楽しく歩ける歩行者空間づくりを目指します。
- ▶ 朝霞駅周辺については、都市再生機構が行う東朝霞団地の建替えにあわせた駅周辺施設の再生とあわせ、生活利便性の向上、憩いやくつろぎの場としての空間も充実した朝霞の顔となるまちを目指します。

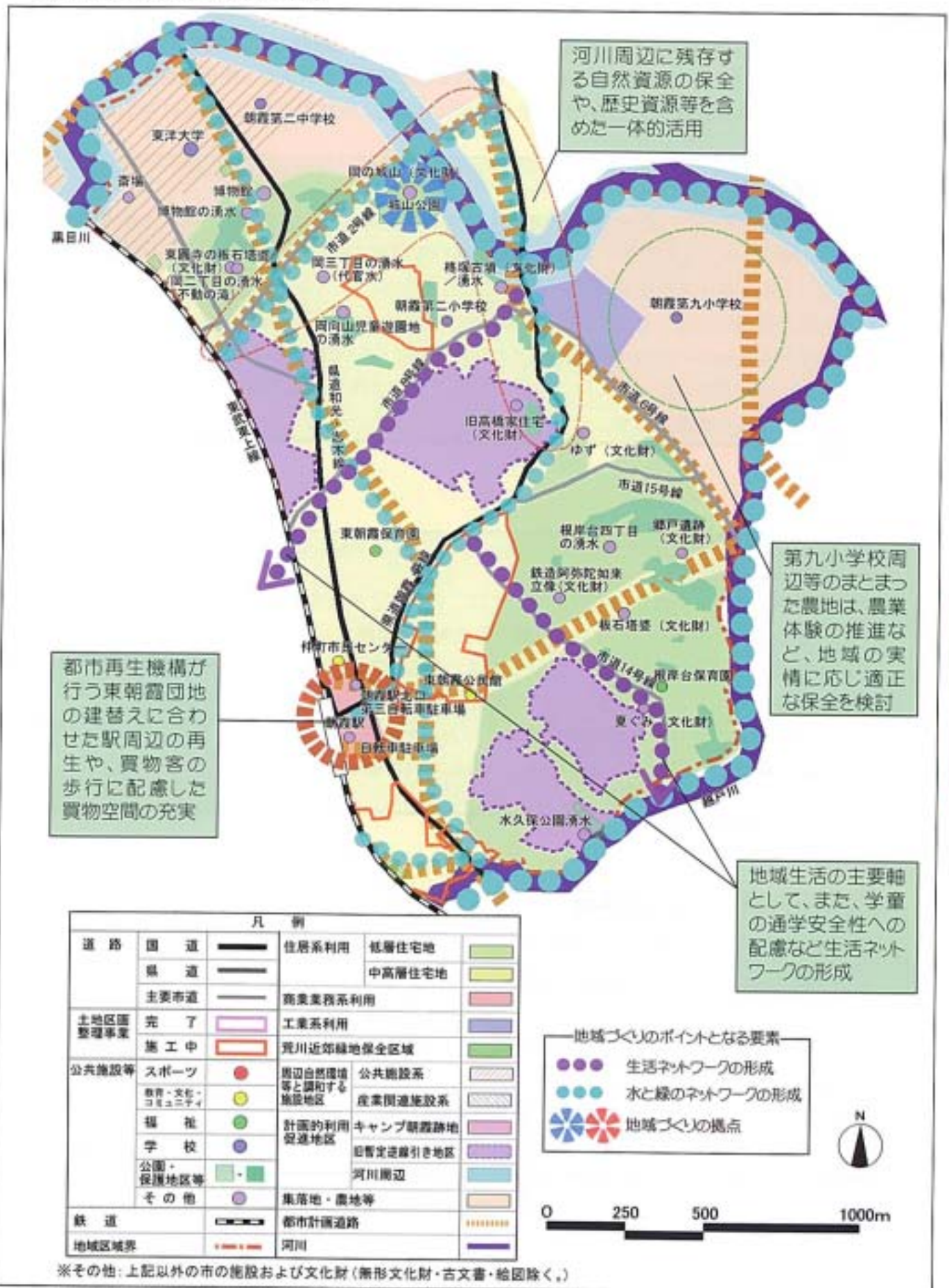
将来像設定にあたってのキーワード・サブテーマ (地域別ワークショップより)

水と緑と
歴史

生活に
うるおい

- 住、緑、水、史、道の共存を図り、人に優しいまちづくりを進めたい
- 静かな空間を維持し、明るく豊かな、生活の充実を図る
- 坂や地形などを活かし、時間を忘れ歩いて楽しい休日をごせるしくみづくりを
※自然・歴史資源をつなぐ、来街者・地元住民ともに楽しめる歩行者に安全な散策路づくりを

【東部地域の地域づくり方針図】



(4) 地域づくりの基本方針

(3) に示す地域づくりの目標を具体的に進めていくための方針を全体構想分野別方針に示す事項を基本としながら「土地利用」、「道路交通体系」、「都市施設・生活環境」、「歴史資源・自然環境」の分野に区分して整理し、その総括について「地域づくり方針図」に示します。

⇒土地利用

- 岡・根岸台地区については、残存する緑や農地の保全等による、既存住宅地の住環境の維持・向上を図ります。また仲町の都市再生機構が行う団地の建替えについては周辺環境との調和を図った中高層住宅地を目指します。
- 岡・根岸台の旧暫定逆線引き地区や地域内の農地については、周辺環境との調和に配慮し、保全すべき農地や計画的な宅地化などの利用方向について検討していきます。
- 朝霞駅周辺の商業地については、市街地整備の促進と商業機能充実の一体的な推進により商業等の活性化を推進します。

⇒道路交通体系

- 地域に整備されている主な市道については、自動車と歩行者および自転車利用者の分離のための交通規制の検討などにより、地域の生活軸・通学路としての安全性を確保していきます。
- 根岸台七～八丁目、台地区など駅から遠隔となる住宅地における体系的な道路網の形成を進め、地域に立地する公共施設や避難場所等へのアクセス（接続）性を高めます。
- 都市再生機構が行う東朝霞団地の建替えにあわせた駅前周辺施設の再生により、駅利用者、歩行者に配慮した安全な歩行者空間を確保していきます。

⇒都市施設・生活環境

- 地域に残存する未利用地などの活用により生活に身近な広場や公園を充実していきます。
- 災害時の避難に資する避難場所の確保とともに、避難場所へのアクセス（接続）性の向上を図ります。
- 既存宅地の生垣化等による住宅地の緑化を進め、まちなみ形成や潤いのある住環境の向上を促進します。
- 河川に囲まれる地域特性をふまえ、低地部の水害に対する安全性の維持・確保に資するよう、雨水・排水対策等も含め、総合的な治水対策を進めます。

⇨歴史資源・自然環境

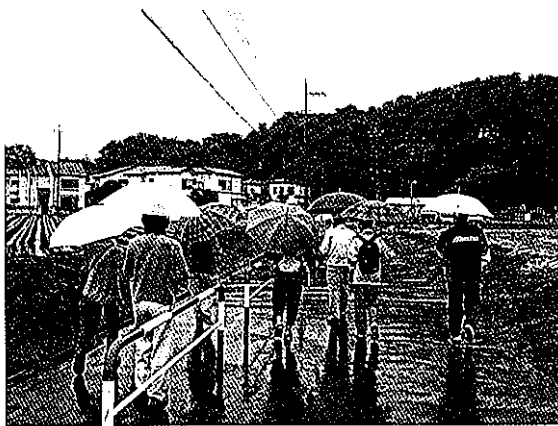
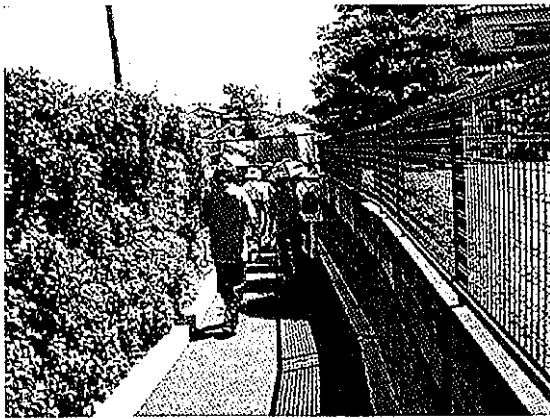
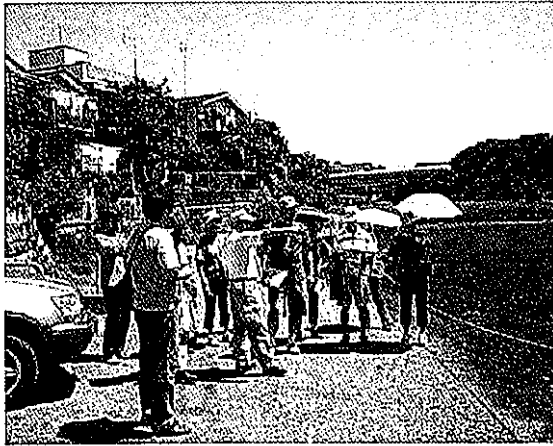
- 黒目川・越戸川、地域内の水路等の水と水辺に残存する緑の保全、残存する湧水や斜面林の保全を図り、潤いある景観づくりや親水性の向上を図ります。
- 城山公園、終塚古墳、旧高橋家住宅等の歴史的要素の保全や、ネットワーク化などによりまちづくり資源として活用します。
- 地域の主要施設（鉄道駅、商店街、公共施設、公園など）を既存軸（河川や道路）で結び、街路樹などによる道路の緑化の推進とともに、地域生活の主要軸の形成にも資する水と緑の軸づくりを検討します。

ワークショップからの声～まちづくり推進のために～

- 農業者との連携による農業体験の実施や、朝霞駅周辺を中心市街地活性化などに対する、地域住民の活動の支援を促進すること
 - 市民と行政の協働による、よりよいまちづくりへの取り組みを推進すること
 - 自然資源や歴史資源等を活かし、より快適な環境を形成していくため、地域住民が一体となって取組むコミュニティ活動・組織づくりの支援やまちづくりを支えるルールづくりに努めること
- ・・・・・・などが重要です。



【地域別ワークショップ 東部地域活動風景】

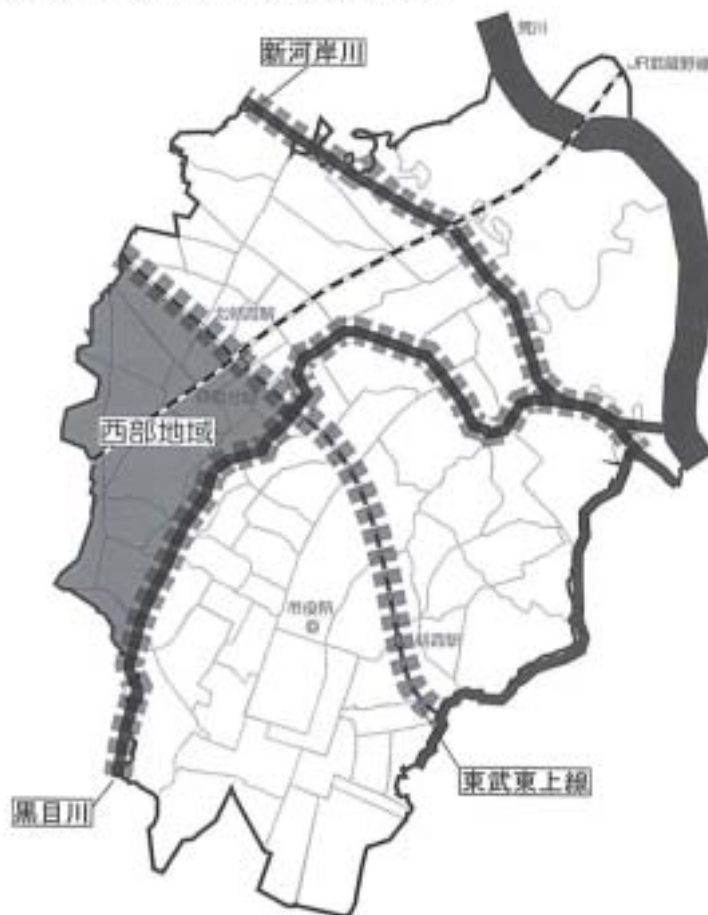


5. 西部地域 (三原・西弁財・東弁財・泉水・膝折町の一部等)

(1) 地域の概要

- ▶ 当地域は、本市の西部に位置し、地域の南東部を黒目川が流れ、武蔵野台地で構成されています。地域の西部は、新座市に隣接しています。
- ▶ 当地域は明治22年(1889年)の合併により膝折村と内間木村となりました。膝折村は昭和7年(1932年)の町制施行時に朝霞町と改名し、昭和30年(1955年)に内間木村と合併し、その後、昭和42年(1967年)に市制施行により朝霞市となりました。
- ▶ 地域界の北東部を東武東上線が、中央部を東西にJR武蔵野線が走り、北東部には朝霞台駅・北朝霞駅があります。
- ▶ 黒目川沿いの周辺は市街化調整区域ですが、他の地域は市街化区域となっています。
- ▶ 駅周辺は、土地区画整理事業が完了しており、また、地区計画により商業集積が図られています。
- ▶ 地域の面積は約247haで、市全体の約14%ですが、地域内人口については約26,400人で市全体の約22%を占めています。地域内の人口は急増傾向にあり地域内人口密度は最も高くなっています。

【朝霞市における西部地域の位置】



(2) 地域の現況と主要課題

① 土地利用

- 現況**
- ▶ 地域北部の駅周辺は土地区画整理事業が完了しており、商業機能の集積が見られます。
 - ▶ 地域の南部は形成年代が古く、小規模な開発による宅地化が進んでいます。また、北部についてはマンション等の立地が進んでいます。
 - ▶ 地域の南東部は工業系用途地域が指定されており、民間企業の大規模施設が立地しています。
 - ▶ 黒目川周辺の市街化調整区域では、貸し倉庫や産廃・廃車の放置等が見られます。
 - ▶ 農地や果樹園などが点在しますが、生産緑地以外の農地の減少が進んでいます。

- 課題**
- ▶ J R 武蔵野線と東武東上線の乗換駅となっている北朝霞・朝霞台駅があり、多くの駅利用者の流動を活かした、商業的土地利用の充実を図るとともに、生活に身近な商業環境の充実が求められます。
 - ▶ マンション等、大規模共同住宅の立地の進行や、工業系の土地利用との混在も見られ、立地抑制や周辺環境への配慮など、適正な市街地環境の維持が望まれます。
 - ▶ 地域には住宅が密集した地域も見られ、その改善とともに防災性の向上も含めた緑地の確保が求められます。
 - ▶ 黒目川沿いに建設残土の放置や、貸し倉庫等の利用が進んでおり、良好な河川沿いの自然にふさわしい適切な土地利用が求められています。

② 道路交通体系

- 現況**
- ▶ 道路幅員が狭く、歩道が設置されている道路が少ない状況です。
 - ▶ J R 武蔵野線が地域の東西に、東武東上線が地域界を南北に横断しており、北朝霞駅・朝霞台駅が設置されています。
 - ▶ 都市計画道路が決定されていますが、整備が行なわれていません。
 - ▶ 鉄道駅を起点に多くのバスが運行していますが、一部、公共交通手段が不足している地域があります。

- 課題**
- ▶ 体系的な交通網の充実や、避難場所へのアクセス（接続）性の向上が望まれます。
 - ▶ 自動車と歩行者の道路機能が混在しており、通学時の危険性も指摘されていることから安全な歩行者空間の確保が求められます。
 - ▶ 駅周辺の駐輪場の有効活用や公共交通機関の充実等、利用しやすい駅前空間づくりが必要です。
 - ▶ 河川沿いの環境を活かし、既存公園等のネットワークにより地域内の回遊性を高めることが求められています。

③ 都市施設

- 現況**
- ▶ 住宅が密集した地域があり、地震・火災などに対する防災対策が懸念されています。
 - ▶ 狭い道路が多く、防災上危険な地域があります。
 - ▶ 都市公園が少なく、オープンスペース（空地）なども少ない状況です。
 - ▶ 鉄道高架下は駐輪・駐車場として利用されています。

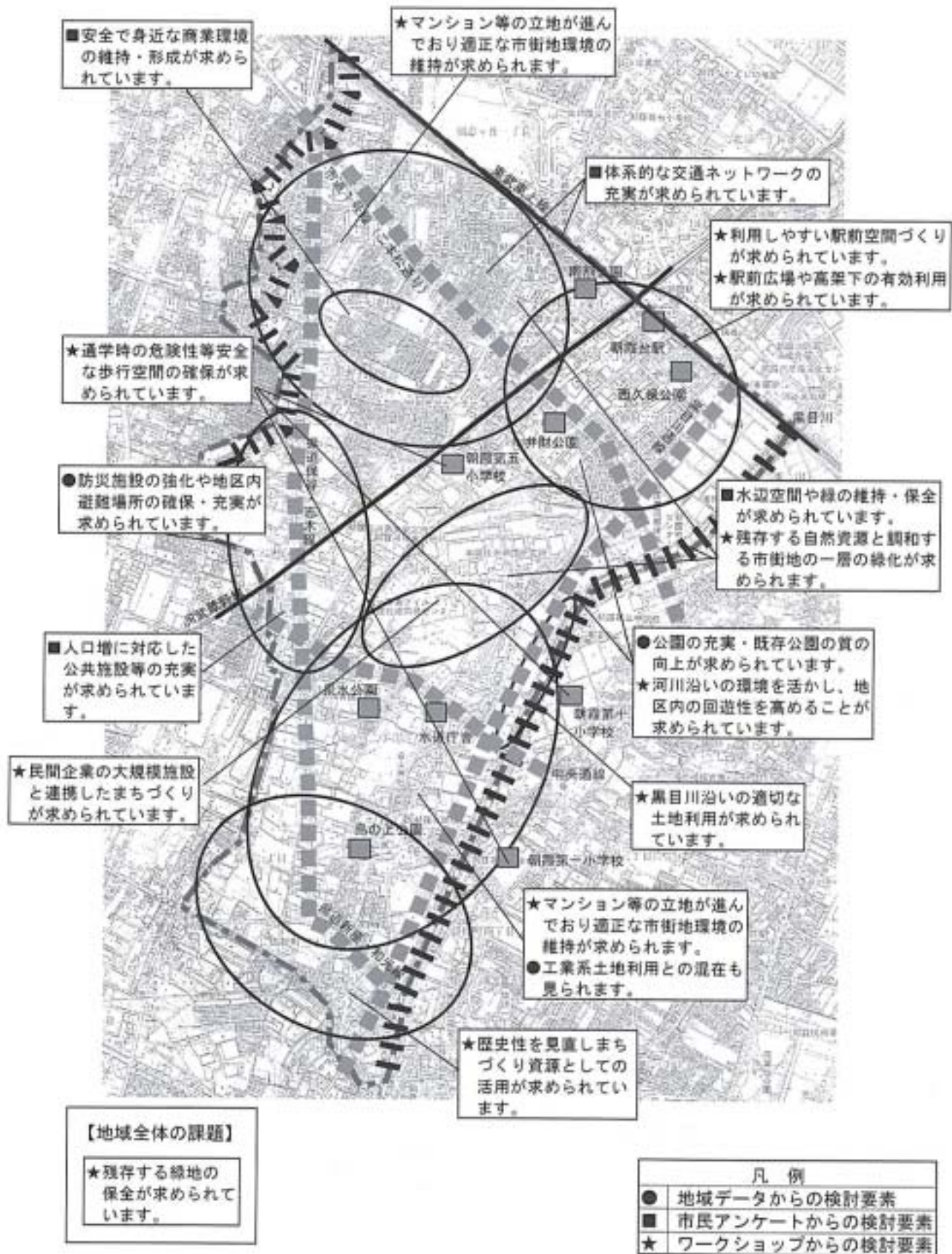
- 課題**
- ▶ 街区公園など生活に身近な公園が不足しており、その充実とともに、既存公園の緑化や環境の改善など質的な向上も望まれています。
 - ▶ 人口増に対応した小学校や保育施設等の充実が求められます。
 - ▶ 防災施設の強化や地域内の避難場所となる空地等の充実が求められます。
 - ▶ 駅前広場や鉄道高架下の有効利用が求められています。

④ 歴史資源・自然環境

- 現況**
- ▶ 黒目川、野火止用水跡、また湧水が僅かながら残存しています。
 - ▶ 大規模な民間企業の敷地等にはまとまった緑が残存しています。
 - ▶ 屋敷林など緑豊かな空間が点在しますが、その多くは個人の所有地（民地）です。

- 課題**
- ▶ 農地や斜面林など緑豊かな景観の保全、また河川や湧水などの水資源の維持が求められます。
 - ▶ 残存する自然資源と調和し、主要道路の街路樹整備等により都市景観にも配慮した市街地の一層の緑化が望まれます。
 - ▶ 伸銅工業発祥の地であることや、川越街道膝折宿のなど歴史的価値を見直し、まちづくり資源としての活用が望まれます。

【西部地域の課題図】



(3) 地域づくりの目標 (将来像)

地域別ワークショップにおいて検討・抽出されたキーワードをもとに、地域の将来像を設定します。

① 将来像

自然(黒目川・緑)と歴史性(伸銅工業・旧街道)を活かし 暮らしにやさしく 住み続けられるまち

② まちづくりの方向性

- ▶ マンション立地の抑制や適正な誘導など、良好な住環境の維持・整備をすすめるとともに、防災性や快適性を高め、住み良いまちづくりを目指します。
- ▶ 市街地の形成過程や土地利用による多様な特性に配慮し、特に黒目川沿い等の無秩序な市街化を抑制し自然環境を保持した土地利用の適正な誘導や、工業系の土地利用については、伸銅工業発祥の地としての歴史的価値の見直し、住宅等の混在への対応などにより土地利用用途の特性を活かすよう、それぞれの区分の中で適正な配慮・誘導を目指します。
- ▶ 密集市街地の改善や大規模マンション建設時の周辺環境への配慮・調整や、身近な公共施設等の充実により安心・安全で快適な生活環境づくりを目指します。
- ▶ 地域内の体系的な道路ネットワークの形成や、狭あい道路(幅員4m未満)の解消などにより、安全でやさしい道路づくりを目指します。

将来像設定にあたってのキーワード・サブテーマ (地域別ワークショップより)

特徴を持つエリア ごとのまちづくり

自然資源

歴史性

住環境

利便性

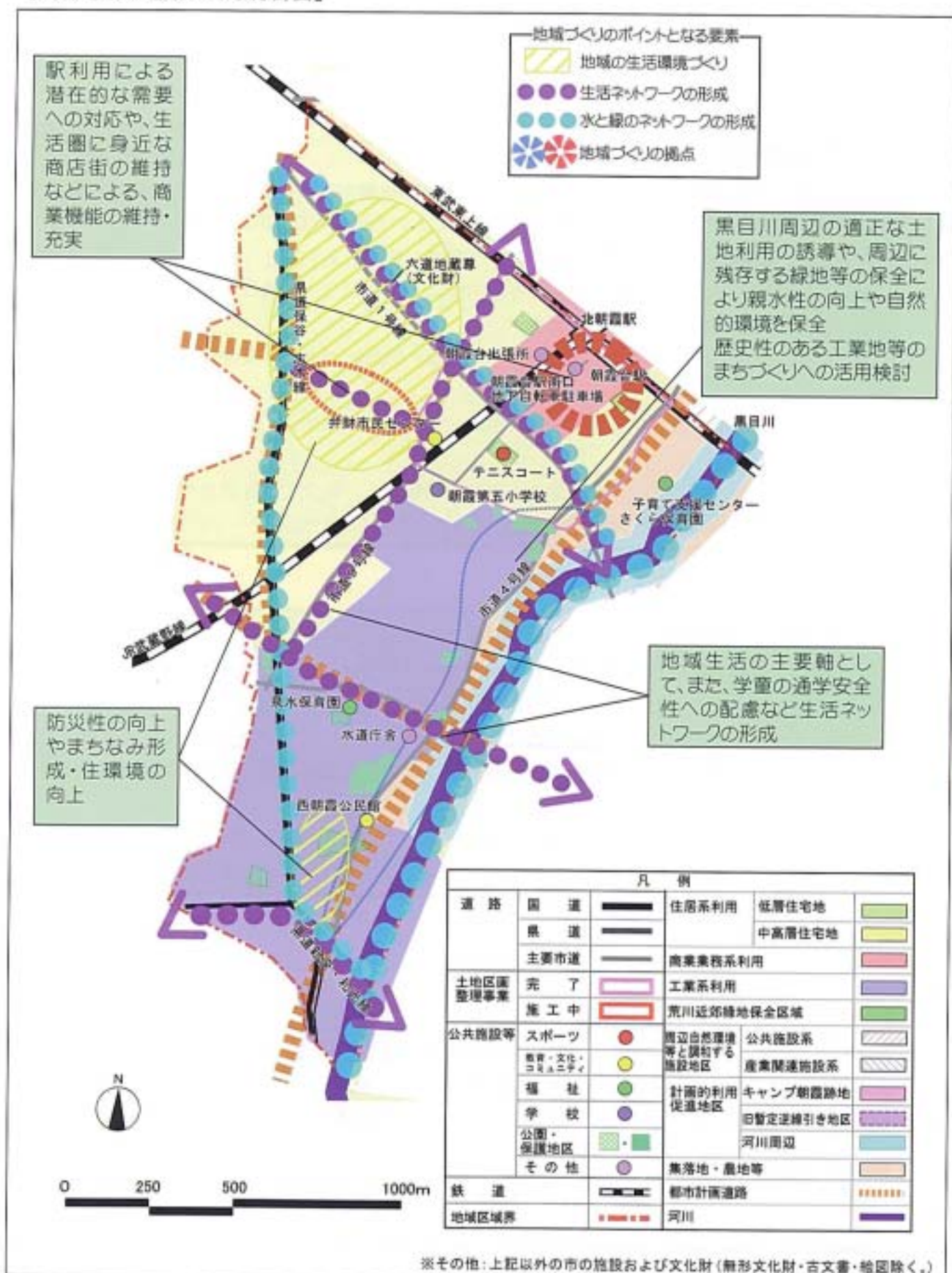
● 特徴をもった地区ごとの目標

- 「緑と水を守り、ふれる」(泉水)
- 「のどか・憩いの空間に」(黒目川流域)
- 「住環境や歴史的価値を守る」(膝折)
- 「住みよい環境へ」(三原)
- 「広く便利に」(井財(朝霞台駅周辺))

● 住民の声を聞くまちづくり、コミュニティの再生が大事

- ひ孫の代までにはよいまちにしたい

【西部地域の地域づくり方針図】



(4) 地域づくりの基本方針

(3) に示す地域づくりの目標を具体的に進めていくための方針を全体構想分野別方針に示す事項を基本としながら「土地利用」、「道路交通体系」、「都市施設・生活環境」、「歴史資源・自然環境」の分野に区分して整理し、その総括について「地域づくり方針図」に示します。

⇨土地利用

- 北朝霞・朝霞台駅周辺の多くの居住者や駅利用者を有する潜在需要の高さに対応するよう、今後も地区計画による誘導を維持し、駅周辺における商業・業務系利用を促進するとともに、周辺の住環境との調和に対する配慮等についても検討します。
- 弁財や三原地区に形成されている既存商店街における安全・快適な買い物場所として、生活に身近な商業環境の充実を支援します。
- 三原地区など、住宅の密集する地域については、防災性の向上や良好な住宅市街地の形成を誘導します。
- 泉水、膝折町地区など住宅と工業施設が混在する地域での住・工相互の環境に配慮した誘導を検討します。
- 地域内の農地については、周辺環境との調和に配慮し、保全すべき農地や計画的な宅地化などの利用について検討していきます。

⇨道路交通体系

- 北朝霞・朝霞台駅周辺の駐輪場施設の適正な運用や交通施設の改善等により、駅利用者・歩行者に配慮した安全な歩行者空間を確保していきます。
- 県道新座・和光線や地域に整備されている主な市道については、自動車と歩行者および自転車利用者の分離のための交通規制の検討などにより、地域の生活軸・通学路としての安全性を確保していきます。
- 泉水、膝折町地区など駅から遠隔となる住宅地における体系的な道路網の形成を進め、地域に立地する公共施設や避難場所等へのアクセス（接続）性を高めます。

⇨都市施設・生活環境

- 既存公園の緑化のあり方や防犯対策などの質的向上とともに、地域に残存する未利用地などの活用により生活に身近な広場や公園を充実していきます。
- 災害時の避難に資する避難場所の確保とともに、避難場所へのアクセス（接続）性の向上を図ります。
- 既存宅地の生垣化等による住宅地の緑化を進め、まちなみ形成や潤いのある住環境の向上を促進します。

⇒歴史資源・自然環境

- 黒目川周辺の自然資源の保全とともに、沿川の公園整備や親水性の向上を促進します。
- 工業地内や公共施設敷地に残存する緑地や、かつて湧水の見られた崖地の保全などにより、地域を特徴づける潤いある景観づくりを進めます。
- 川越街道膝折宿としての街道筋や伸銅工業発祥の地として、地域の歴史的要素の保全やネットワーク化などにより、まちづくり資源として活用します。
- 地域の主要施設（鉄道駅、商店街、公共施設、公園など）を既存軸（河川や道路）で結び、街路樹などによる道路の緑化の推進とともに、地域生活の主要軸の形成にも資する水と緑の軸づくりを検討します。

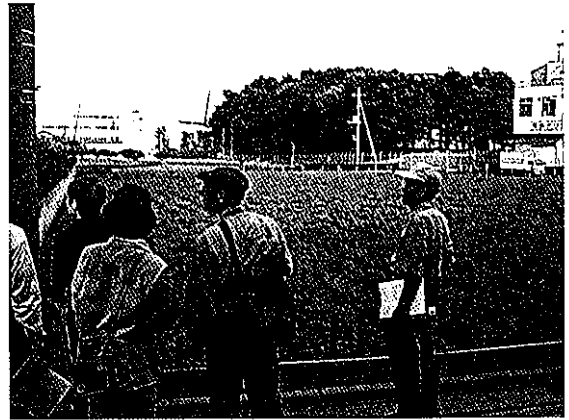
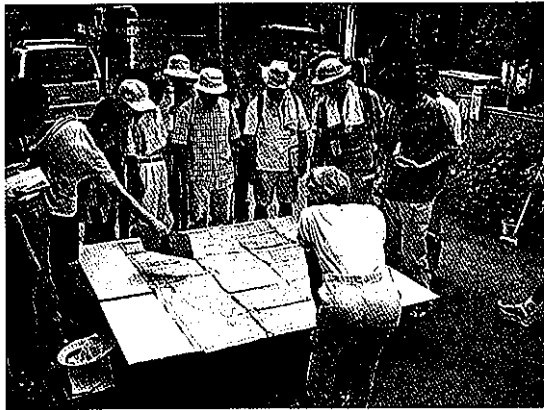
ワークショップからの声～まちづくり推進のために～

- 自然資源や歴史資源等を活かし、より快適な環境を形成していくため地域住民が一体となって取り組むコミュニティ活動・組織づくりの支援やまちづくりを支えるルールづくりに努めること

.....などが重要です。



【地域別ワークショップ 西部地域活動風景】

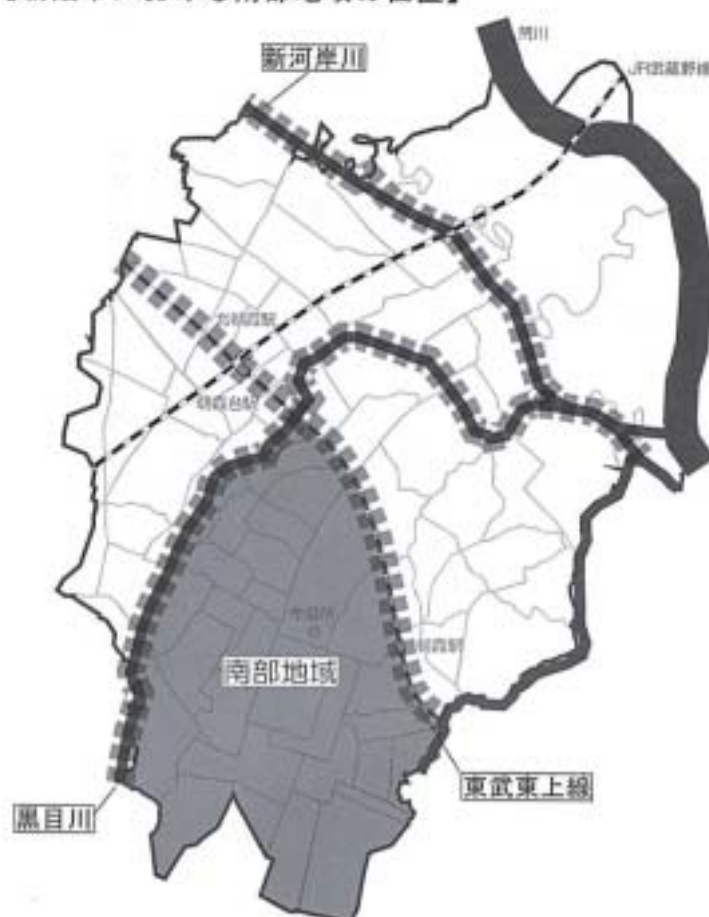


6. 南部地域 (本町・溝沼・幸町・栄町・青葉台・膝折町の一部・キャンプ朝霞跡地等)

(1) 地域の概要

- ▶ 当地域は、本市の南部に位置し、地域の西部から北部を黒目川が流れており、武蔵野台地で構成されています。地域西部は新座市に、南東部は和光市に南部は東京都練馬区に接しています。
- ▶ 当地域は、明治22年(1889年)膝折村・溝沼村・岡村がその他3村と合併し膝折村となりました。昭和7年(1932年)の町制施行時に朝霞町に改名し、その後昭和30年(1955年)には内間木村と合併し、その後、昭和42年(1967年)に市制施行により朝霞市となりました。
- ▶ 黒目川沿いの低地、および当地域の中央に位置するキャンプ朝霞跡地、南端の陸上自衛隊朝霞駐屯地は市街化調整区域となっています。
- ▶ 地域界を東部から北部に東武東上線が走っており、南東部に朝霞駅があります。駅周辺を中心市街地は、近年商業の衰退が見られるため、周辺の土地区画整理事業等の整備とあわせ商店街の活性化が求められています。
- ▶ 地域の面積は約463haで、本市全体の約25%を占め、地域内人口については約45,800人で本市全体の約38%を占めています。地域内の人口は、朝霞駅周辺の地域を中心に増加傾向にあります。

【朝霞市における南部地域の位置】



(2) 地域の現況と主要課題

① 土地利用

- 現況**
- 地域南部にはキャンプ朝霞跡地が、存在します。
 - 住宅が密集した地域があり、地震・火災などに対する防災対策が懸念されています。
 - 工業系、商業系および住居系の建物用途の混在が見られます。
 - 黒目川沿い等に休耕地などが点在します。

- 課題**
- 既存の住宅地の環境維持とともに、形成年代の古い住宅地については、その改善が望まれます。
 - 朝霞駅を中心とする、古くからの商店街が散在する市街地の活性化が求められます。
 - キャンプ朝霞跡地をはじめ、公共的な遊休地等の活用、自然資源・防災空地としてなど多様な土地利用の検討が望まれます。
 - 黒目川沿いの良好な自然にふさわしい適切な土地利用が求められています。

② 道路交通体系

- 現況**
- 道路幅員が狭く、歩道が設置されている道路が少ない状況です。
 - 地域の南部を国道254号(川越街道)が横断しており、他地域から東京都心等への通過車両が多く見られます。
 - 自動車と自転車・歩行者の錯綜が見られます。
 - 朝霞駅を起点に多くのバスが運行していますが、一部、公共交通手段が不足している地域があります。
 - 地形の高低差による急なカーブの坂などが多く見られます。

- 課題**
- 地域内の体系的な交通網の充実や、自動車と歩行者の道路機能が混在の解消など、安全な歩行者空間の確保が求められます。
 - 朝霞駅と市内の主要施設を効果的に結ぶよう、バス路線網の見直しなど公共交通手段の充実が必要です。

③ 都市施設

- 現況**
- 市役所をはじめ、多くの公共施設が分布しています。
 - 朝霞駅方面への自転車利用者が多く、駅周辺等に放置自転車が多く見られます。
 - 都市公園は、比較的多く分布しています。

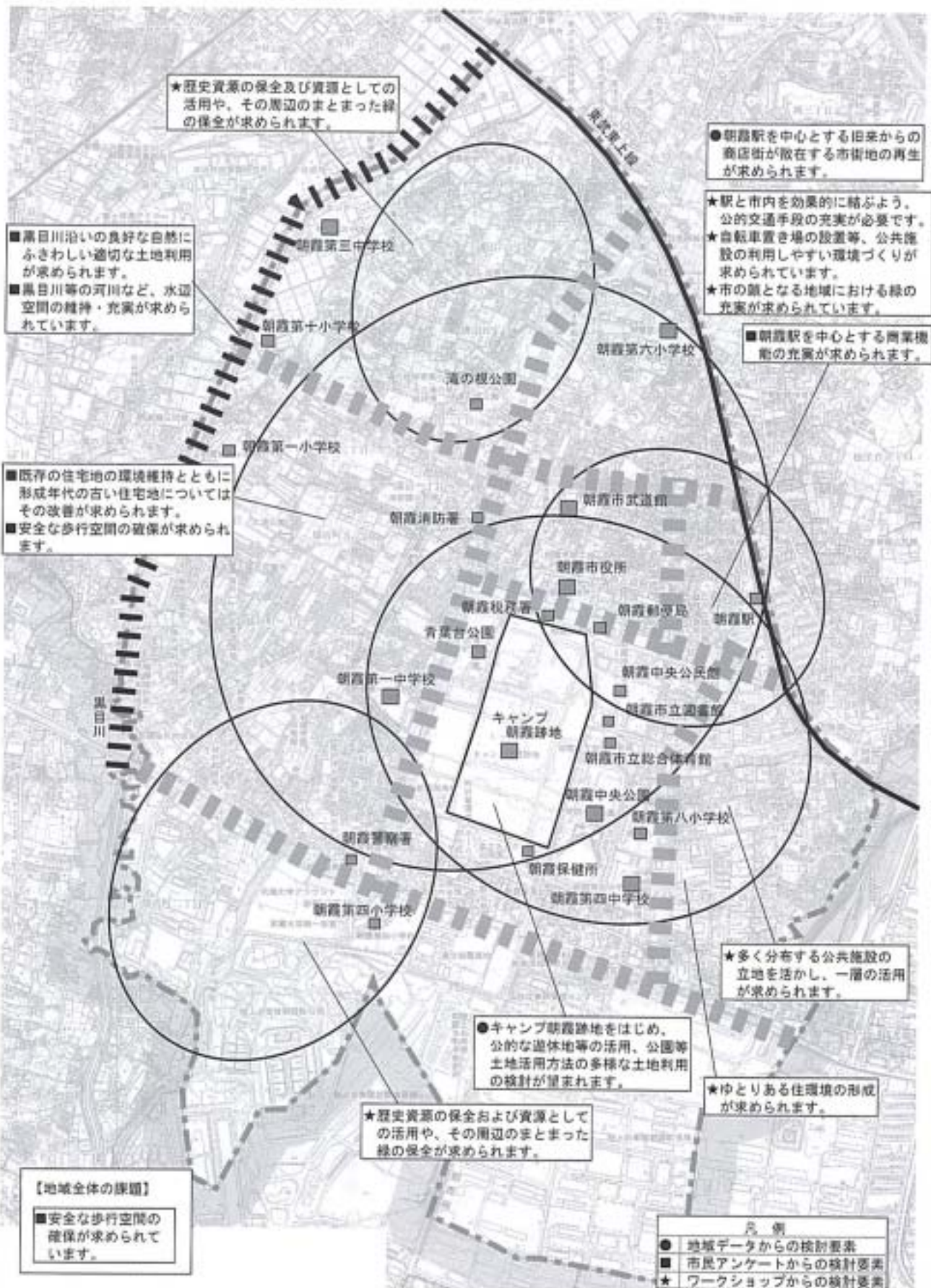
- 課題**
- 多く分布する公共施設の立地を活かし、一層の活用が求められます。
 - 多くの利用者がある駅周辺の自転車駐車場や、公共施設の駐車場の充実・活用など、公共施設が利用しやすい環境づくりが求められています。

④ 歴史資源・自然環境

- 現況**
- 黒目川は、子どもが遊べ、水にふれあえる場所であり地域の貴重な資源となっています。
 - 暗渠となっている水路が存在します。
 - 広沢の池や膝折の湧水、キャンプ朝霞跡地や寺社など自然資源、歴史資源も多く存在します。
 - 駅周辺は緑が少ない状況です。
 - 川越街道膝折宿など、昔ながらのまちなみが残る地域も存在します。

- 課題**
- 黒目川等の河川や、暗渠となっている水路の改善など水辺空間の充実が望まれます。
 - 朝霞駅周辺等については、市の顔となる地域における街路樹や商店街の緑化など、みどりの充実が求められています。
 - 寺社やまちなみ等、歴史資源の保全および資源としての活用や、その周辺のまとまった緑の保全が求められます。

【南部地域の課題図】



(3) 地域づくりの目標（将来像）

地域別ワークショップにおいて検討・抽出されたキーワードをもとに、地域の将来像を設定します。

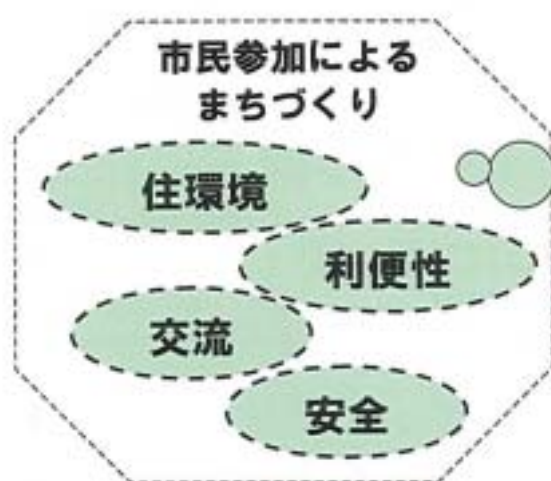
①将来像

豊かな緑に囲まれた 文化が薫る 賑わいのまち

②まちづくりの方向性

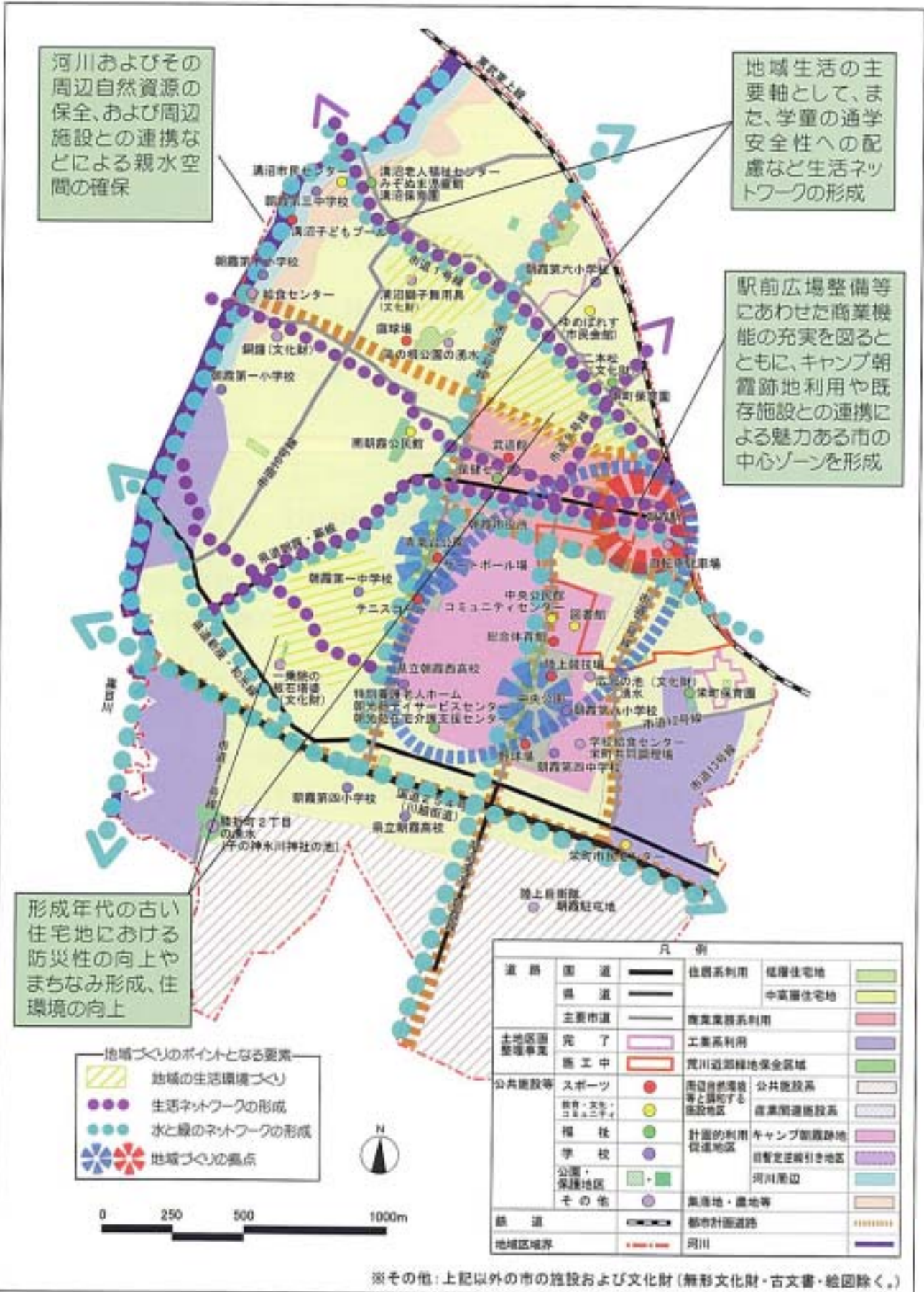
- ▶ 朝霞駅や多く分布する公共施設の立地、さらにキャンプ朝霞跡地などの公共性の高い未利用地を活かし、駅前広場整備等とあわせ、朝霞市の顔・交流拠点としてのまちづくりを目指します。
- ▶ 形成年代の古い既成市街地の改善や、キャンプ朝霞跡地等の活用による緑・オープンスペース（空地）の確保、道路規模・配置間隔等に配慮した体系的な道路網の形成により、安心して楽しく歩ける歩行者空間づくりを図るなど、ゆとりある住環境づくりを目指します。
- ▶ 市街地に散在する農地の保全・活用の検討、黒目川周辺などの自然資源の保全や、寺社・川越街道膝折宿などの歴史・文化資源の活用により特徴ある景観づくりを目指します。

将来像設定にあたってのキーワード・サブテーマ （地域別ワークショップより）



- 市民参加によるまちづくり
- 自然が豊富なキャンプ跡地
- 良好な住宅環境
- 利便性の高い公共交通
- 充実した公共施設
- 周辺（隣接市との連携）とのつながり
- 自然と歴史にふれあえるまち
- 誰にも安全な歩行者空間
- 災害に強いまち

【南部地域の地域づくり方針図】



(4) 地域づくりの基本方針

(3) に示す地域づくりの目標を具体的に進めていくための方針を全体構想分野別方針に示す事項を基本としながら「土地利用」、「道路交通体系」、「都市施設・生活環境」、「歴史資源・自然環境」の分野に区分して整理し、その総括について「地域づくり方針図」に示します。

⇒土地利用

- 朝霞駅周辺については、商業業務系利用の促進を図り、賑わいづくりや安全で楽しい買物空間づくりを進めます。
- 膝折町地区に形成されている既存商店街における生活に身近な商業環境の充実や、栄町地区における幹線道路沿道の商業地の充実を支援します。
- 幸町・本町地区など、形成年代の古い住宅地については、防災性の向上や良好な住宅市街地の形成を誘導します。
- 地域内の農地については、周辺環境との調和に配慮し、保全すべき農地や計画的な宅地化などの利用方向について検討していきます。

⇒道路交通体系

- 朝霞駅周辺の駅前広場や自転車駐車場の整備により、駅利用者、歩行者に配慮した安全な歩行者空間を確保していきます。
- 県道朝霞・蕨線や、地域に整備されている主な市道については、自動車と歩行者および自転車利用者の分離のための交通規制の検討などにより、地域の生活軸、通学路としての安全性を確保していきます。
- 鉄道駅から遠隔となる住宅地における体系的な道路網の形成を進め、地域に立地する公共施設や避難場所等へのアクセス（接続）性を高めます。
- 点在する公共施設や朝霞駅等拠点となる場所へのアクセス（接続）性の向上や、市内循環バスルートの見直し、民間バス事業者への要請等により公共交通のさらなる利便性向上に努めます。

⇒都市施設・生活環境

- 市役所をはじめ、主要な公共施設の立地を活かし、朝霞駅前の活性化と連動した回遊性の高い歩道・広場の設置・充実などにより市の中心拠点としての魅力を高めます。
- 既存公園の緑化のあり方や防犯対策などの質的向上とともに、地域に残存する未利用地などの活用により生活に身近な広場や公園を充実していきます。
- 災害時の避難に資する避難場所の確保とともに、避難場所へのアクセス（接続）性の向上を図ります。
- 既存宅地の生垣化等による住宅地の緑化を進めるなど、まちなみ形成や潤いある住環境の向上を促進します。
- キャンプ朝霞跡地について、防災拠点やみどりの拠点など多面的な利用可能性の検討を行います。

⇒歴史資源・自然環境

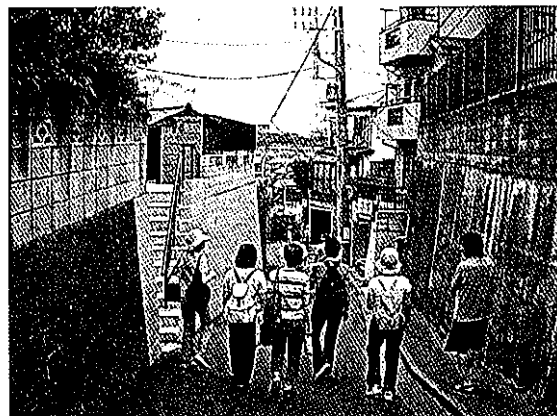
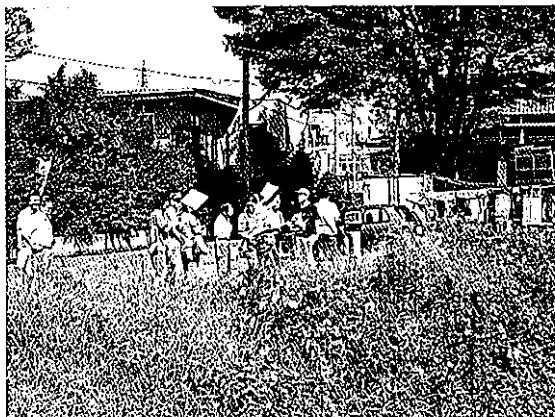
- ▶ キャンプ朝霞跡地や黒目川、広沢の池など、まとまった自然資源や寺社、川越街道膝折宿などの歴史資源について、まちづくり資源としての活用を図ります。
- ▶ 黒目川周辺の自然資源の保全とともに、沿川の公園整備や親水性の向上を促進します。
- ▶ 地域の主要施設（鉄道駅、商店街、公共施設、公園など）を既存軸（河川や道路）で結び、街路樹などによる道路の緑化の推進とともに地域生活の主要軸の形成にも資する、水と緑の軸づくりを検討します。

ワークショップからの声～まちづくり推進のために～

- ▶ 市民と行政の協働による、よりよいまちづくりへの取り組みを推進すること
 - ▶ 地域ぐるみの公園管理や朝霞駅周辺の中心市街地活性化など、地域住民の活動支援を促進すること
 - ▶ 自然資源や歴史資源等を活かし、より快適な環境を形成していくため、地域住民が一体となって取り組むコミュニティ活動・組織づくりの支援やまちづくりを支えるルールづくりに努めること
- ・・・・・・・・・・などが重要です。



【地域別ワークショップ 南部地域活動風景】



土地利用		交通	
■ 第一種市街地	■ 第一種市街地	● 主要幹線	● 主要幹線
■ 第二種市街地	■ 第二種市街地	● 一般幹線	● 一般幹線
■ 第三種市街地	■ 第三種市街地	● 支線	● 支線
■ 第四種市街地	■ 第四種市街地	● 支線	● 支線
■ 第五種市街地	■ 第五種市街地	● 支線	● 支線
■ 第六種市街地	■ 第六種市街地	● 支線	● 支線
■ 第七種市街地	■ 第七種市街地	● 支線	● 支線
■ 第八種市街地	■ 第八種市街地	● 支線	● 支線
■ 第九種市街地	■ 第九種市街地	● 支線	● 支線
■ 第十種市街地	■ 第十種市街地	● 支線	● 支線
■ 第一種市街地	■ 第一種市街地	● 支線	● 支線
■ 第二種市街地	■ 第二種市街地	● 支線	● 支線
■ 第三種市街地	■ 第三種市街地	● 支線	● 支線
■ 第四種市街地	■ 第四種市街地	● 支線	● 支線
■ 第五種市街地	■ 第五種市街地	● 支線	● 支線
■ 第六種市街地	■ 第六種市街地	● 支線	● 支線
■ 第七種市街地	■ 第七種市街地	● 支線	● 支線
■ 第八種市街地	■ 第八種市街地	● 支線	● 支線
■ 第九種市街地	■ 第九種市街地	● 支線	● 支線
■ 第十種市街地	■ 第十種市街地	● 支線	● 支線

- 中心部の核
- 中心部の核
- 中心部の核
- 中心部の核
- 中心部の核



7. 地域づくり方針総括図